PDF Compressor Free Version

郷土を語り
人々の輪が拡がる

東京奈良県人会だより

平城遷都1300年記念号（28）

TOKYO NARA HUMAN NETWORK NEWS NO. 28

大極殿

目次

ご挨拶…… P 2
　荒井知事…… P 2
　西会長…… P 2
平城遷都 1300 年記念シンポジウム …… P 3
平城遷都 1300 年記念特別寄稿 …… P20
奈良の将来について考える～奈良県養徳学舎の学生と共に…… P28
ふるさと奈良の集い…… P30
平成 23 年賀詞交歓会 …… P32
奈良まほろば館からのお知らせ…… P38
ふるさとコーナー…… P39
参与会など…… P42
お知らせ…… P43

このたびの東日本大震災でなくなられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災されました地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復興をお祈り致します。

PDF Compressor Free Version

平城遷都1300年祭をバネにして

奈良県知事　荒井正吾

平城京が誕生して1300年にあたる昨年、日本の歴史・文化が連綿と続いてきたことを祝い、感謝するとともに、奈良の歴史を再確認し、日本と東アジアの平和と繁栄を願う平城遷都1300年祭を開催しました。県内全域において、各地の特性・魅力を生かしたイベントや社寺の秘宝・秘仏の特別開帳が展開され、主会場となった平城宮跡では、復原された第一次大極殿が一般公開されたのをはじめ、往時の国づくりや国際交流、文化に想いを巡らし、体験することができるよう、工夫を凝らした催事や展示を実施しました。

10月8日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、平城宮跡会場で開催した記念祝典では、天皇陛下よりお言葉を賜り、また日本と中国、韓国の子供たちが、将来に向けた友好交流のメッセージを「平城京宣言」として発信しました。会期中、平城宮跡会場には約363万人もの来場者をお迎えすることができ、県全体では約2,140万人もの方々にご来訪いただき、奈良は大いに賑わいました。行催事の開催にあたっては、県民の皆様はもとより、ボランティアの方々や東京をはじめ各奈良県人会の皆様方にご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

この記念事業の経験を生かし、「本物」という大きなポテンシャルを持つ奈良の魅力をさらに引き出し、奈良県の活性化、発展に繋げていきたいと思っています。ポスト1300年祭として、まず平城宮跡や明日香での「歴史展示」に向けた取り組みを進めます。奈良が有する価値は、国の始まり、仏教の伝来そして東アジアとの国際交流という歴史そのものであり、奈良を訪れる方々に歴史の持つ意味や意義の理解を深めてもらいたいと考えています。また、古事記完成から1300年にあたる2012年を来年に控え、古事記や日本書紀、万葉集、風土記を素材として、記紀万葉の時代を楽しんでもらう「記紀・万葉プロジェクト」にも取り組みます。

このような取り組みを通し、国内外の来訪者に奈良でしかできない感動を味わっていただくとともに、地域の魅力と活力の向上に努めてまいります。

平城遷都1300年に思いをはせて

東京奈良県人会会長　西与吏郎

平素は、東京奈良県人会の運営につきまして格別のご協力、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、郷土奈良は、昨年平城遷都1300年をむかえ、平城宮跡への来場者も予想の1.5倍の約363万人に達するなど大きな成功をおさめました。まさに万葉の「にほふがごとく今盛りなり」ぶりが再現されたといえましょう。郷土を離れて首都圏を中心に活動する会員からなる私ども東京奈良県人会としましても、この繁栄を今後の奈良にどう繋げていくか、関心の高いテーマであります。そこで、昨年11月18日に、奈良県との共催で、「ふるさと奈良の集い」開催日、会場に合わせ、「平城遷都1300年記念シンポジウム―1300後の今、奈良発展の鍵は―」と題し、シンポジウムを開催いたしました。

今回発行いたします県人会会報「東京奈良県人会だより」につきましては、このシンポジウムの討議模様を中心に、会員からの寄稿なども交え遷都1300年記念号として編集し、発行する運びとなりました。

シンポジウムの討議に参加いただきました上野東大寺長老、千田奈良県図書情報館館長、藤沢ソフィア・バンク副代表はじめ、ご寄稿いただきました荒井奈良県知事はじめ会員の皆様、養徳学舎の寮生の諸君には、奈良への熱い思いをお寄せいただき、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

われわれ東京奈良県人会は、皆様のこの「思い」を、奈良の発展、ひいてはわが国の繁栄そして東アジア・世界との共生につなげて行くことをミッションとして、これからも活動して参る所存ですので、皆様からのいっそうのご指導ご鞭撻をお願いいたします。

PDF Compressor Free Version

平城遷都1300年記念シンポジウム

― 1300年後の今、奈良発展の鍵は ―

昨年11月18日、東京奈良県人会は、東京椿山荘にて奈良県と共催で開催しました「ふるさと奈良の集い」の開催に合わせ、「平城遷都1300年記念シンポジウム―1300年後の今、奈良発展の鍵は―」をテーマにシンポジウムを開催しました。

郷土奈良は、昨年平城遷都1300年をむかえ、日本さらには世界中からの観光客に連日溢れ、まさに万葉の繁栄ぶりが再現されました。当会としましても、この繁栄を今後の奈良にどう繋げていくか、関心の高いところであります。そこで、①平城遷都1300年を迎えた今、奈良の発展に向けてどのようなことが必要か、②奈良の将来像、奈良に期待すること、奈良の果たすべき役割は何かをなどをテーマに、奈良ご出身の識者でおられる東大寺長老　東大寺学園理事長の上野道善(うえの　どうぜん)師、奈良県立図書情報館館長の千田稔（せんだ　みのる）氏、シンクタンク・ソフィアバンク副代表の藤沢久美（ふじさわ　くみ）氏をお招きし、シンポジウムを開催した次第です。

今回の特別号ではそのシンポジウムの内容をご紹介します。（敬称は適宜省略させていただきました。）

上野道善（うえの　どうぜん）師
東大寺長老、東大寺学園理事長、奈良県教育委員長。
1962年、龍谷大学仏教学科卒業。1978年、東大寺摂頭真言院住職（現在に至る）。東大寺大仏殿副主任、同上院（二月堂）副主任、東大寺学園常任理事、東大寺財務執事、東大寺庶務執事を歴任し、2000年、東大寺執事長。2004年、東大寺大仏殿院主、東大寺学園理事長。2007年、東大寺第219世別当。
奈良県奈良市出身。

千田　稔（せんだ　みのる）氏
奈良県立図書情報館館長、国際日本文化研究センター名誉教授、
立命館大学客員教授、帝塚山大学特別客員教授、文学博士。
1966年、京都大学文学部史学科卒業、同大学院博士課程（地理学専攻）を経て、追手門学院大学助教授、奈良女子大学教授、国際日本文化研究センター教授を歴任。1994年度濱田青陵賞受賞。2005年度には、日本地理学会優秀賞受賞。著書に『平城京の風景』（文英堂）、『古代の風景へ』（東方出版）、『平城京遷都』（中央公論新社）、監修に『平城京（別冊太陽）』（平凡社）など著作、監修多数。奈良県三宅町出身。

藤沢久美（ふじさわ　くみ）氏
シンクタンク・ソフィアバンク副代表、社会企業家フォーラム
副代表、法政大学大学院客員教授、東京奈良県人会会員。
大阪市立大学卒業。国内外の投資運用会社勤務を経て、1996年、日本初の投資信託評価会社を設立。2000年、ソフィアバンク設立に加わり、2004年から副代表。2007年ダボス会議を主宰する世界経済フォーラムより「Young Global Leaders」に選出。テレビ、ラジオや雑誌、講演を通じて、経済や経営などに関する提言を続けている。金融審議会委員他、公職も多数兼務。「なぜ、御用聞きビジネスが伸びているのか」（ダイヤモンド社）（韓国で翻訳出版）、「子供に聞かせる『お金』の話」（PHP研究所）（中国・台湾・韓国・タイで翻訳出版）ほか多数。
奈良県生駒市出身。

植嶋　平治（うえしま　へいじ）コーディネーター
東京奈良県人会理事　奈良県生駒市出身

平城遷都1300年祭

○東京奈良県人会　西会長による歓迎のあいさつでシンポジウムが開幕した。

西会長：本日はお忙しい中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。平素は県人会にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。記念すべき2010年も残り少なくなりました。「平城遷都1300年祭」のメインである平城宮跡の会場もこの7日で最終日となったそうです。この間、10月8日には天皇皇后両陛下がご出席され、1300年記念祝典が行われました。また天平ロマンをテーマに多彩なイベントを繰り広げ、予想以上の大盛況となり、県内各地の観光地も大変なにぎわいを見せており、誠に喜ばしい限りでございます。県人会としましても、この繁栄を今後奈良に、どうつないでいくのか、関心の高いテーマであります。本日は日本を代表する3人の先生

PDF Compressor Free Version

方にこのような問題意識を出発点として、お話しをしていただくことになりました。どうか最後までご静聴のほどよろしくお願いいたします。簡単ではありますが、あいさつといたします。

コーディネーター（植嶋理事）：シンポジウムでご登壇いただいたお三方のプロフィールにつてご紹介せていただきます。

まず、上野道善様は奈良県奈良市のご出身。2007年から東大寺の第219世別当ということで東大寺を切り盛りしていらっしゃいました。今年からは長老というより高い立場で東大寺の運営を見ておられます。現在は東大寺学園の理事長、そして奈良県教育委員長の公職に就かれております。

東大寺はご存じのとおり平城遷都1300年の歴史を歩んでこられた寺院でございます。今日はそのような立場からお話を頂きたいと思っております。

続きまして、千田稔様でございます。千田様は奈良県磯城郡（しきぐん）三宅町のご出身で2005年に奈良市内に開館いたしました奈良県立図書情報館の館長を務めていらっしゃいます。充実した図書、蔵書、そして最新鋭の設備が評価されまして、2009年には「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」を獲得されております。それから国際日本文化研究センターの名誉教授をはじめ、各大学、大学院にて歴史学の指導を行っておられます。また平城遷都1300年事業協会の理事として、今回のプロジェクトにも参画されておられました。今回は歴史文化の研究者として1300年の意義につきましてご意見を賜りたいと思っております。

最後に、藤沢久美様でございます。奈良県生駒市ご出身でこのメンバーの中で唯一首都圏をベースに活躍されておられます。また東京奈良県人会の会員でもいらっしゃいます。藤沢様は日本で最初の投資信託の評価会社を起こされるなど事業家でもいらっしゃいまして、最近はダボス会議等国際会議にも参加されておられます。特に日本の中小企業の経営にも造詣が深いことからテレビ・ラジオ等の経済番組のコメンテイターとしても活躍されておられます。最近ではNHKの「Bizスポ・ワイド」にも出ておられますので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。今日は事業経営としての立場で、お話を頂きたいと思っております。

それでは早速ではございますが、まず3名の方からそれぞれ10分程度、遷都1300年を迎えた意義といいますか、これは日本、世界、あるいは奈良に関してでも結構ですが自由に語っていただいて、その後それぞれ皆さまの意見を交えていきたいと思っております。

それでは若い者順ということで藤沢様からお願いしたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

藤沢：　ありがとうございます。初めまして、藤沢と申します。このような貴重な機会に私のような若輩者が参加させていただき、しかもこんな高いところに座らせていただいていることを大変恐縮に感じております。一緒に座らせていただいています先生方のお話を、私はいちばん後ろの後ろで聞かせていただく立場であるのに本当に恐縮しておりまして、お役に立てるようなお話ができるか大変緊張している次第でございます。若い者順という機会を頂きましたので、最初に少しだけお話しをさせていただきたいと思います。

奈良は奇跡の都市

1300年、私は素晴らしいと。私の人生はまだ40年ほどでございますけれども、1300年と聞いたときに私が非常に強く思ったのは、1300年も続いている。これはすごいことなのではないかと思った次第です。そんなことを思う理由の1つなのですが、先ほど植嶋さんからもご紹介いただきましたように、ここ3年間、スイスにダボス会議を運営している世界経済フォーラムというのがあるのですが、そのダボス会議のメンバーとして5年間、世界の課題を解決するために活動せよという指令を与えられて世界各国を回っています。

この3年間で20カ国くらい回ったのですけれども、会議があると同時に1日だけ必ず自由な

PDF Compressor Free Version

時間を取って、もしある場合にはその地域にある世界遺産を見るようにしてきました。ですから中東、アフリカ、中南米各地の世界遺産を見てくるわけですけれども、2000年前、3000年前、1000年前の古い遺跡を見るわけですね。すべてが死んだ町なんです。すべてが必ずしももう人が住んでいるわけではなくて、遺跡なんです。抜け殻なんですね。

なぜそういう世界遺産と言われるものが今は誰も住んでいない、ただの石の塊のように観光客だけが見るものになってしまったのだろうか。なぜここが消えてなくなってしまったのだろうか。もちろん一つには天変地異ということがあります。大地震であるとか水害、でもそれ以上に大きな理由というのは、私は人間の欲だったのだろうなと、その町に行くたびに思います。

町がどんどん豊かになって経済発展していく中で、できるだけもっともっと豊かになりたい、それは経済的にもっとお金がほしい、もっと名誉がほしい。もっとたくさんの権威を身に付けたい。そういうものにどうも歯止めが利かなくなって世界遺産と言われるような古き町は消えていったのではないかと、歴史を伺うたびに感じることが大変多いのです。

そんな中で1300年、変な言葉の使い方かもしれませんけれど、生きたまま続いている。しかも民族も変わることなくその当時いらした天皇家というのが今も続いている、これは奇跡なのではないかと、外に行くとしみじみ思うわけです。そして同時に世界の課題を解決せよと言われて活動しているわけです。

世界の課題は「多様性」、「草の根」、「欲」

今世界の国際会議に出ていくと必ず議論されることというのは、新しい資本主義、新しい経済の仕組みをどうするかということが議論されていて、そこでもやはり同じことがテーマです。皆さんも新聞やテレビでよくお聞きになっていると思いますけれども、グリーディー（貪欲）な資本主義、欲の塊のような資本主義はもう終えるべきだと。自分だけがすぐに、もうかればいい、誰よりも多く、もうけたいといったそういう思いで動く経済の仕組みはもう終えなければいけないと。そういうことが国際会議で議論されるのですが、なかなか、どうしたらいいのかという答えが出ない。

常に欧米とこれから伸びつつあるアジア、中東、中南米あたりが常に衝突をしているわけですね。結局どちらも自分たちの欲というものを抑え譲り合うということがなかなかできない。そんなことを世界の会議で目の当たりにしているわけですが、こういうことが続く限り、「持続性」なんていうのはなかなかに難しいだろと思うわけです。

今あらためて世界の課題を3つの言葉で表してみると、ひとつはグローバル化した中での多様性、いろんな種類の人たち、いろんな民族、いろんなものが存在する多様性、これをどう受け入れれていくか、どう考えていくかということが1つ。もう1つはこの多様性の延長線上にあるのですが、権力やお金を持っている人だけではなく草の根の人間たちです。インターネットが存在していますので、たった1人の貧しい国の人間であっても、インターネットというものを通じて世界に影響を与えることができる、草の根の時代がやってきているということ、そして3つ目が先ほど申し上げました人間に消えることのない欲というもの。この3つをどのように新しい仕社会の仕組み・パラダイムというのでしょうか、そういうものに取り入れていくのかということが、これから考えなければいけないテーマだと思います。

奈良こそ現代世界の課題を解決

今日はあらためてお二人の先生方に伺いたいのですが、私の聞きかじりの奈良の歴史でいきますと、こういった多様性というものはすでに奈良の平城京の時代、韓国や中国、そしてシルクロードを通って遠くペルシャのほうから入ってきたものといろいろ多様なものを受け入れて、奈良の

PDF Compressor Free Version

平城京がつくられてきたということ、そして草の根という意味では常に大衆の寄進を受けて東大寺が再建されたり、いろいろなものが大衆によって運営されて守られ助け合われてきたという奈良、そして欲という意味ではやはり仏教があったからでしょうか、それともそこにある道徳なのか私には分かりませんけれども、自分だけがお金持ちになる、自分だけが豊かになろうということをあまりしてこなかったのが奈良なのではないか。

京都・着倒れ、大阪・食い倒れ、奈良・寝倒れというそうですけれど、寝て待っていればお金が入ると。これはある意味非難のようにも聞こえますけれど、がむしゃらに自分だけがもうけてやろうというそういう欲の塊ではないというひとつの姿なのではないかと思うんです。そういう意味でこの奈良というのは、こうして1300年続いている中に、今世界がどうしたらいいのだろうと考えている秘訣・ヒント、答えが随分あるのではないか。

そしてそれは日々の生活の中にきっともう根付いていて、奈良にいるとなかなかに気付かないことかもしれない。私はこれからのいちばん重要なキーワードは、「人間」であると。そういう意味ではその人間、奈良には素晴らしい人間がいるからこそ、こうして1300年続いてきた。

奈良貢献のキーワードは「教育」、「文化」、「産業」

さらにその素晴らしい人間がさらに素晴らしくなり、それで世界に貢献するというか提供していくために必要なことがまた3つあるのかなと考えます。その1つが教育。奈良を通じて教育ということをどう発信していけるだろうか。2つ目は文化です。文化というのはイコール生活だと思うのですが、奈良を通じて文化というものを世界にどう発信していけるのだろうか。そして3つ目は産業、こうした歴史に基づく奈良の中には、重要な産業があると思うんですね。その産業を今の時代に合わせてどう進化させていき世界に貢献していくのか、この3つの柱で考えいかなければいけないと思っています。

奈良国際映画祭が新たな奈良のスタートに

そんな中で1つだけ余談でお話し申し上げますと、今回1300年を機に私の友人である映画監督の河瀬直美さん、カンヌで賞を取った彼女が奈良で国際映画祭を始めました。私は、これはまさにこの3つのテーマを包含した活動であったなと思っています。世界、特にアジアの若い映画監督を集めて彼らの映画のコンペを行いました。それと同時にアジアの有能な若い監督を奈良に招いて、奈良をテーマに映画を撮っていただきました。これらの映画はこれから世界に発信されます。

そして今回映画祭で賞を受けたメキシコ人の監督はこれから2年かけて十津川村をテーマにして映画を撮ります。未来の黒澤監督になるかもしれない若者です。彼は、これから2年間十津川に住み、そこの素晴らしさを発見し、これから世界に発信してくれるのです。

そしてこの映画祭というのは奈良を始め日本全国の草の根の方々のお金で何とか回りました。本当は奈良の経済界の方にもっとお金を出してほしかったと思います、県からももっとお金を出してほしかったのかもしれませんけれど、でも私はこれがある意味新たな1300年に向けてのスタートではないかと思っています。こんな活動がもっとたくさん広がっていけばいいなとそんなことを願いつつ、今日は先輩方から奈良にはどんな素晴らしい秘訣・秘密があるのか、学んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

千田：千田でございます。今藤沢さんの話を聞いて、奈良というのはいかに素晴らしいところであるかということをおっしゃっていただきました。難しい問題ですよね。人間の欲というものが、ある意味で欲がなければ何も進歩をしない。その欲の出し方の問題だと思うんですね。欲を持ったら悪いということになると、本当に地球上には活性力がなくなってしまうという、そういう難しい問題があるわけです。

PDF Compressor Free Version

奈良女子大誕生秘話

少し過去のことになりますが、奈良というのは経済界の人が非常に元気な時代があった。今は元気でないと言い切るとまたおしかりを受けるのですが、しかし元気があるとはとても言えないというのは、これはまた現実であると思います。

どんな元気があったかといいますと、明治の30年代から40年代の話です。ご承知のとおり今、奈良女子大学という大学があります。あそこはもともと江戸時代の奉行所、奈良奉行所の跡地なんですね。ところが奈良女子大学はもともと奈良女子高等師範学校がもともあそこにできる予定は全くなかったんです。全国で東京に女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大）があったら、次は京都につくるのが普通のバランス感覚なんです。京都にも女子高等師範学校の予定地がありました。これは岡崎にありました。ところが奉行所の跡に岡倉天心・東京美術学校の校長が東京美術学校の分校をつくりたいと言ったんです。これは奈良にとっては非常にいいことだったんですね。奈良が持っている財産、つまり仏教美術のセンターにしたいというわけです。

ところが先ほど藤沢さんも人間の問題とおっしゃいました。人間というのは本当はどうしようもないんですね。人間が持っている欲とかいろいろなものがあるものですから、人生は予定どおりにいかないわけです。ここにいらっしゃる方は人生が予定どおりいかれた方が多いのかと思いますが、岡倉天心もやはり不徳の致すところで、ご存じの方が多いと思いますけれど女性事件で東京美術学校の校長を辞めさせられてしまうんです。そうすると東京美術学校の分校を奉行所跡につくるという計画は挫折してしまいます。そこで奈良の経済界というのは今から思っても、強かったと思いますね。京都に既に予定地がある女子高等師範学校の敷地をキャンセルさせて、奈良に引っ張ってきた、これはなかなかできるものではないです。

それくらいの力があった時代というものを私は全然知らないのですが、今思うと奈良というのはもっと頑張ってもいいのではないかなという感じがします。別に金もうけとかそういう意味ではなくて、奈良という風土をいかにつくっていくかという問題については経済界の人に頑張っていただかなければならない。

小澤征爾さんの「奈良にオペラハウス」構想

それから2番目のチャンスも奈良にはあったんです。あの有名な世界的な指揮者の小澤征爾さんが「奈良にオペラハウスをつくりたい」とおっしゃったんです。「自分の音楽は奈良でしか生きてこないんだ」と、そこまで奈良にほれていただいたんです。しかし当時の奈良県の財政事情でお断りをしてしまった。オペラハウスというのは維持費が大変だと思います。ただそのときにできていたら、上野長老の東大寺の大仏殿とオペラハウスというのは、古代と現代というすごくいいバランスになったんですね。奈良がもっともっと復活するといいますか、元気になる要素がありました。それが財政事情だと思いますけれども、うまくいきませんでした。これで2つうまくいかなかった。

画期的な遷都1300年祭

そして3つ目、私自身個人的には、やはり遷都1300年に賭けてみようと思ったんです。いろいろな事情がございました。パビリオンがほとんどないイベントをやりました。これは大成功だったですね。現代の日本人の生き方というのは、あの平城遷都1300年祭のメイン会場の平城宮跡において、ああ日本人は変わったなあと思ったんですね。愛知万博のようなあんなパビリオンパビリオンしたイベントは最初の設計図にはあったんですよ。そしてもちろん私が大好きなパビリオンもあったんです。

ただそれが夢のように消え去ってしまって、あとは京都からばかにされたような草っ原ばかりになった。ところがそこに予想以上の方々にお訪ねいただいた。これは日本人がパビリオンとい

PDF Compressor Free Version

う浮かれたような舞台装置といいましょうか仕掛けというものが、いかにむなしいものであるかということが分かってきたという、かなり象徴的な出来事として受け取っているんです。これが今度国交省のお力を借りて国営公園になるということで、それの第一歩を今年踏み出したわけです。ですからそういう意味では平城宮跡というものが、これからの奈良にとって非常に新しい場所となる。新しい場所というのはどういう場所であるかというと、日本を考える場所になるだろうと、そう思うんです。

始まりの奈良

言いたいことがいっぱいあるのですが10分しか時間がないので、また後で時間があれば申し上げますが、京都に向かって言いたいことは、「原っぱでよかったなあ」ということ。これはすごいメッセージとして国営公園を作りたいと思います。私自身は遷都1300年祭の語り部のごとく、恐らくいくら低く見積もっても100回は講演をしてきたと思います。そのときに絶えず強調してきたことは、「奈良は京都との差別化を図れるのかどうか」なんです。

古い都を古都と言ってしまえば、修学旅行は京都でおしまいになります。奈良と京都が持っているポテンシャリティ・潜在的な力は全く違う。奈良のほうがよほど強いんです。これを奈良県の人々にはなかなか理解していただけない。京都、あれは古都というよりも、もはや行楽の都市であって、本当は古い文化が残っていないのですが、古い文化があるように巧みに演出された都市なんです。奈良はおっとりした町だから、京都が頑張っても奈良は黙っていたわけですが、1300年というこの大きな節目を迎えた後は、日本の中で、やはり奈良がこの国をつくったところであるということをもっと言わなければならない。

「始まりの奈良」というキャッチフレーズがありました。私自身は「日本誕生」を提案しました。「日本誕生」なんかと言うと、右翼と思われるからやめましょうということで、「始まりの奈良」としましたが、非常にパンチ力が弱かったんです。なぜ「日本誕生」という言葉が使えなかったのか。右翼も左翼もないわけです。「日本誕生」さえ言えば京都との差別化が確実にできたわけです。「始まりの奈良」と言ったら、やはり「始まりの京都」もいっぱいあるわけです。これからは、言葉の力が非常に重要であろうと思います。

上野：　東大寺の上野でございます。私は口下手でございますので、お二方の先生のようにうまくはしゃべれません、また勉強もしておりませんので間違ったことも言うかと思いますので、間違ってると思われましたらどうぞご自分で訂正をしていただきたいと（笑）、このように思うわけでございます。

光明皇后没後1250年

今年は遷都1300年という節目ですけれども、東大寺といたしましても光明皇后がお隠れになって、1250年という節目になっているんですね。天平宝字（ほうじ）4（760）年にお隠れになって、ちょうど今年で1250年になるわけです。東大寺としましては御遠忌（ごおんき）大法要を10月15日から3日間、秋篠宮もお出ましいただきまして盛大にやらせていただきました。

新聞等で発表しておりましてご存知の方もいらっしゃると思いますが、聖武天皇が天平勝宝8（756）年にお亡くなりになったわけです。東大寺の開眼（かいげん）法要は、天平勝宝4（752）年です。その4年後の5月2日聖武天皇がお隠れになった。その49日のときに、光明皇后は聖武天皇が使っておられた調度品を全部大仏様に献納するということで、東大寺に頂くわけです。それが正倉院のお宝ということなのですが、「国家珍宝帳」という目録を添えてそれと一緒に東大寺に献納していただいたわけです。

PDF Compressor Free Version

その中に「東大寺金堂鎮壇具（ちんだんぐ）」というものが含まれておりました。鎮壇具というのは、大仏様がいつまでも静かに座っていただくようにということで、そういう願いを込めて、この下のほうにお宝というか大事なものを埋めるという習慣がありました。明治の大修理のときに、下は掘れませんので、足場を組むために、その周囲を掘りましたらいろいろなものが出て来たわけです。その国家珍宝帳にも、「金銀荘太刀」（きんぎんそうのたち）、陽剣・陰剣が書いてあったわけです。ところが東大寺に頂いて、目録には載っているのですが実際実物はなかったんですね。どうなっているのかなあとそれぞれが思っていたわけです。

遷都1300年に行方不明の「金銀荘太刀」と判明

ところで東大寺は鎌倉時代の平重衡（しげひら）の乱と戦国時代の三好・松永の乱と2回、戦争で焼き討ちに遭っているわけです。鎌倉時代は俊乗坊重源（ちょうげん）というお坊さんにすぐに復興にかかっていただいて元に戻るのですが、それからまた400年後くらいの戦国時代、三好・松永の乱によって再び炎上するわけです。そのときは戦国時代という大変厳しい時代だったものですから、もちろん建物は焼けておりますし、大仏様は焼けただれ、傷んだまま雨ざらしで130年間ほど放っておいたんですね。

これではということで元禄の時代に公慶（こうけい）上人というお坊さんが出られまして江戸幕府に陳情に行き、全国に勧進に歩いていただいてようやく再再建されたのが現在の大仏さんであるわけです。

ところが明治の中頃から大正の初めにかけて非常に傷んでまいりまして、解体修理をするということになって、その時に足場を建てるのに大仏さんのお足の辺り、その周囲を掘ったわけです。そうしましたら太刀が出てまいりまして、そのときは土の中に埋もれておりましたから錆たりして、珍宝帳に載っている金銀荘太刀であったかどうかは分からなかったんですね。ところが最近鎮壇具の調査を兼ねた修理をしておりまして、この間レントゲン撮影をしたら、「陽劔・陰劔」という文字が浮かんできたわけです。その目録に載っておりました陽宝劔、陰宝劔、であるということが判明したということであるわけです。ですから1300年近く経っていたのが、この間明らかになったということです。

光明皇后の社会事業

光明皇后という方は、聖武天皇を支えて奈良の都のことにご尽力され、また一面非常に慈悲深い面もあって貧しい人のための悲田院や、病める人に薬を与える施薬院を設けられました。そういう光明皇后の精神を東大寺といたしましては現在もお継ぎし、福祉事業として身体不自由の方々の病院を経営しております。

また法華寺さんでは「カラ風呂」、今のサウナですけれど、そういう風呂をつくられて人々のために疲れを癒すということもされています。

その後東大寺にも「大湯屋」というものをつくって、改修のときの大工さんとかいろいろな方々にその風呂に入ってもらって疲れを癒してもらうというようなこともなされたということです。湯屋をつくられた所に皇后は、1000人のアカを落とすということをされ、1000人目にはライ患者が来て、光明皇后も驚かれたのですが、そのライ患者の膿を吸われたといういわれも残っておりまして、非常に慈悲深い方であったということで、東大寺もそういう精神を継いで現在に生かしているということでございます。

コーディネーター：皆様ありがとうございました。それではそれぞれご発言いただいた内容につきましてご意見を頂きたいと思います。

まず藤沢様からお話いただきました点です。世界の遺跡は廃墟となっているのに対し、奈良では現在も人類が住んで、文化の伝承が続いているということ。また奈良時代というのは多様性を受け入れる文化があって、渡来人の方もたくさんいらして技術や文化をもたらしました。もちろ

PDF Compressor Free Version

ん今のアメリカ等に留学するのとははるかに違って、命を懸けた遣唐使や留学僧が海外の文化を持ち込んだということもございまして、グローバルな時代であったということまずこの点について、千田先生は歴史家として、今との共通性という点ではどういうご意見をお持ちでしょうか。

グローバルな奈良時代

千田：藤沢さんがおっしゃったことはごもっともなことなので、奈良時代をプラスの方向で見ると非常にグローバル化された、多様化された文化が日本でつくられていく。これは現代に至るまで日本というのはそういう位置付けをするということがひとつの決まり文句になっているわけです。

日本人というのはクリエイティブな力がないんだということをまず自嘲的に言うわけですね。そして海外のいろんな文化を取り入れて、日本人はそれをアレンジするのがうまい国だというふうに言われてきたし、日本人も自ら言ってきたように思います。確かにそうなんです。皆さんが今ここにお座りになって、お召しになっている服装から、この建物。電灯、そしてこのマイクから、どれ1つを取っても日本人がクリエイティブにつくったものは何もないんです。言うなれば我々は欧米の植民地の中にいるという認識はお持ちにならないと思いますが、よく考えてみると、今日は着物・和服をお召しの方はいらっしゃらないですよね。これはもう完全に欧米化された、つまりグローバル化された状況なんです。だけどもそれを、日本人はそれほどうまく海外の文化を取り入れたという言い方をするならば、これは日本人の優れた才能だと思います。

ユネスコ奈良宣言

そこで世界遺産のことにつて藤沢さんが触れられましたので、私も、世界遺産について、とくにその選び方についてお話したいと思います。世界遺産というのは皆さん非常に魅力的に感じられますし、私も世界遺産というのは素晴らしいものがたくさんあるということでこれを認めるのは当然です。ただ世界遺産の選び方は、ユネスコの世界遺産の委員会がいろいろな条件で判断をした、言うなればユネスコ・スタンダードというか世界スタンダードなんですね。それに選ばれたということは非常にうれしいことだし有意義なことなのですけれども、一方で今奈良ということを考えてみますと、これは長老の横ではなかなか言いづらいのですが、

上野：どうぞ、どうぞ言うてください。

千田：平城京ができたとき、まだ東大寺はないんですよ。平城京ができたときにいちばん重要な寺は、薬師寺と大安寺、この2つなんです。薬師寺は世界遺産になりました。この日本の木造建築が世界遺産になるのは難しいんです。ユネスコというのはヨーロッパばかりを見てきました。ヨーロッパを見ていると石造、石で造った遺産が多い。ですから例えばローマ時代のものであれば、ほとんどそのままで継承されていきます。日本の場合は木造ですから火災に遭ったりして、古代のもの、天平時代のものであってもなかなか継承されない。これは東大寺さんだって同じことです。

けれども奈良が世界遺産になったときに、ユネスコの「奈良宣言」という画期的な宣言がありました。それは古代の技術・技法で造られているならば、新しいものでも世界遺産にしてよろしいということです。これはユネスコとしては非常に賢明な判断をされたんです。それはそれでいいんです。

大安寺の重要性

ところが奈良の世界遺産の中で先ほども言いましたように、薬師寺と大安寺が平城京で重要な寺でありましたが、大安寺は世界遺産から外れてしまっているんです。それから西大寺も世界遺産から外れています。これはユネスコ・スタンダードから漏れ落ちているわけですね。古い建築技法のものが何も残っていない。だから世界遺産にすることはできない。

だけども大安寺というのはもともと大官大寺（たいかんだいじ）と言ったんです。大は偉大な

PDF Compressor Free Version

る「大」、官は官僚政治の「官」、大官（たいかん）というのは天皇という意味です。偉大なる官です。そして大寺（おおでら）というのも官の中の非常に重要な寺です。ですから東大寺というのものそうなのですが、大官大寺であった。いつのころからか大官大寺という名前が大安寺に変わってしまうんです。これは藤原氏の陰謀だと思います。けれども平城京に都が移ったときに、恐らく境内の面積は大安寺がいちばん大きかったと思います。

それからかなり力のあった、あるいは遣唐使で帰ってきた僧侶たち、例えば道慈とかあるいはインドの僧、菩提僊那（ぼだいせんな）、この方は大仏開眼のときに導師をお務めになった方で東大寺さんとも大変ご縁のある方ですけれども、その中で審祥（しんじょうあるいは、しんしょう）というお坊さんは新羅の人であるのか新羅に留学した日本人なのかは微妙なのですが、華厳経の勉強をされてきたんです。その華厳経を東大寺— 当時は金鐘寺と言いましたが —の良弁（ろうべん）さんをはじめ、そこのお坊さんたちにレクチャーされるんです。その審祥という方も大安寺の僧なんです。

そしていろんな立派な方がいらっしゃるのですけれども、そのようなことで大安寺は仏教学の研究センターでありました。あの研究センターがなかったら、天平文化の仏教文化というのは華開くことはなかったと思われます。大安寺がなかったら東大寺はできていなかったかもしれない。それほど大事な寺が世界遺産に選ばれなかったということで、大安寺さんは今、非常に寂しい思いをされているのでないかと想像します。

ユネスコ・スタンダードへの疑問

これはユネスコ・スタンダードが持つある種の限界のようなものなのです。何でもヨーロッパ・アメリカの基準を持ってきてよろしいということから脱却しないと、日本は国際社会で生きていけない。西大寺は東大寺さんと非常に関係の深い寺ですね。奈良時代の終わりに称徳天皇がお造りになった寺です。称徳天皇というのは先ほどお話をされました光明皇后のお嬢さんです。ですから東大寺、西大寺というのが並んでくるのですが、その西大寺も世界遺産に選ばれなかった。そういう選ばれなかった寺というものに対する目配りがあまりできていないのではないか。

大安寺こそ平城京を造ったではないか。にもかかわらず世界遺産に選ばれなかった。そういうところを我々はもっともっと視野を広くして、今後平城京というものを見る見方を変えていかないと、どうしてもユネスコ・スタンダードに左右されてしまうという世界遺産というのは、これはグローバルに見たらいいのかもしれないけれども、地元の目から見ると我々はなぜユネスコ・スタンダードにのみ傾かなければならないのかという、そういう問題提起はこの偉大なる古い都・奈良から発信してもよいのではないかと、つまりユネスコスタンダードに敬意を表しつつも、もう一つのスタンダードもあってよいのと思うのです。

コーディネーター：先ほど藤沢さんがお話しになられた「欲」が古代都市を廃墟にした点です。仏教は「欲」というものに対して抑制的といいますか、影響を与えたのではないかとのご指摘がありましたが、上野長老に、仏教が日本の歴史や経済に与えた影響についてどういうふうにお考えになりますでしょうか。

東大寺創建の精神 「動植悉く栄えんこと」

上野：先ほど話が出ましたように、和銅3（710）年の平城遷都のときには、東大寺はまだかたちもなかったんですね。その後時代的には非常に不安定要素の多い時代であったんですね。政権争い、王位継承の争いで、都が転々と移ったわけです。そして元の平城京に移ってそこで本格的に大仏建立が始まりました。その前後には地震が起こる、山火事は起こる、干ばつだと思えば豪雨が来る。そしてほうき星が出たり日食が起きたりと、自然の不思議な不吉な予感が次々に出てきたと載っています。そして九州には天然痘が発生して多くの政府高官、一般の人たちが亡くなります。これは一体どういうことなのかと、聖武天皇も悩まれたわけです。これはやはり上に立つ者の責任

PDF Compressor Free Version

だということで、これには仏教の力を借りてやり直すしか方法がないということで、それで大仏建立を思いつかれたと思っております。

平城京の両方、東（ひんがし）の大寺・西の大寺を建立し、国家の安泰人々の幸せを祈っていただいたと同時に、治安も落ち着いて天平文化というものが次第に伸びていくというか、発展していくということになるわけです。聖武天皇が、私は天皇であるけれども大きな事業をするのには幅広く多くの人たちの力を借りないと、ということで、一握りの土でもいいから大仏さんを造るのに参加してくれることを望むとおっしゃって、多くの方々の力を借りて、大仏様を完成していただいたということなんですね。「動植悉く栄えんこと」、今のような自分さえよかったらいいんだというような考え方ではなくて、やはり共存共栄の精神が、その時代にもいかされていたのではないかという気がするわけです。

コーディネーター：今長老がおっしゃったのは「勧進」という大変示唆に富んだお話しをいただとおもいます。2度の大火があって大仏の修理のときには、それぞれ民衆のお金を集めるという「勧進」あって出来上がってきたということですね。

「勧進」の思想

上野：この勧進というのは、俊乗坊重源さんも一輪車に乗って全国を回られたと。公慶上人も70日間横になって寝られなかったというほど全国を歩いていただいているんですね。勧進に回りますともちろん東大寺の歴史とか仏教説話も同時に、地方地方で説いていかないと、なかなか協力していただけないということで、そういうことをするうちにそれぞれの地方とも密接な関係ができてくることにもなるわけです。この辺が大事なことではないかという気がします。

使命感をもったリーダーの重要性

藤沢：今長老のお話を伺って、「勧進」のため70日間横になることなく全国を回ったということでしたが、これだと思うんです。草の根が自発的に何かをするということはもちろんあることです。もし草の根が自発的に何かをしたときにも、やはり今のように70日間横にならないで頑張るリーダーがいるかどうか、いたかどうかということがものすごく重要なことだと思うんですね。私は今の話に本当に感銘を受けました。

ノーベル賞を受賞されたムハマド・ユヌスさんもやはり寝ずに努力したということに近いところがあります。彼が既存の金融機関と闘い、そして貧しい農村の女性たちを説得しながらこうやってお金を使って自立するんだよということを必死でやったわけです。ですから草の根が動くというのはやはりそのリーダーだと思うんです。今の日本というのはどこか、そのリーダーの足を引っ張るところがある。ねたむところがありはしないでしょうかということを感じます。奈良はどうなんでしょう。

今回河瀬さんと一緒にイベントをやったとき、何か海外で賞を取ってきてということでやはり少し厳しい批判を頂いたりすることもありました。そういう意味ではもしそうやって頑張ろうという人がいたならば、ちょっと応援してみようかと。応援しなくてもいいですけれど、足は引っ張らないでおこうかみたいな、そういうことの大切さというのはすごく感じたりしますね。

そういう意味では先ほどのお話で、東大寺を再建するために全国を走り回られた僧の方というのは、多分足も引っ張られ、ねたみも受けたかもしれない。いろんなことを言われたかもしれない、だけどおやりになったというのはやはり信念だと思うんですね。ですから今私は、足は引っ張らないほうがいいですよねなんて言いましたけれど、やはりそこまでこれを残すのだ、これを再建するのだというそういう人間が奈良から生まれてくるかどうかということが、今問われていることだと思いますし、もしかしたら奈良からではなく、外から奈良にやってきて奈良を何とか

PDF Compressor Free Version

したいんだという人が出て来たときに、奈良はどうするのだろう。それを受け入れるのか、いや、やっぱり奈良県人でやるんだと言うのだろうか。そんなことも一度議論してみたい、そんな気持ちもします。

コーディネーター：少し別のテーマに入らせていただきますが、教育と文化と産業ということで、いちばん最初藤沢さんにキーワードをおっしゃっていただきました。教育というのは産業であるのかどうかということもあるのですが、藤沢さんは以前から、教育における寺院の果たす役割ということをおっしゃっていました。当時のお寺というのはひとつの大学のような教育機関であったということで、それが日本文化を形づくったといわれております。

現在も奈良では教育が盛んに行われています。この前テレビの番組を見ましたら、教育費を使っているのは奈良が全国で2番目に多いということが出ていました。奈良が教育面において力を発揮して、発展につながっていくようなことは考えられないでしょうか。続けてで申し訳ありません。長老は現在東大寺学園を運営され、かつ教育委員長でもいらっしゃいますので、そういうお立場からぜひお願いいたします。

寺院ならではの教育

上野：　東大寺学園の元は寺子屋式といいますか、お寺の一画で働く勤労青年のために、我々の先輩たちが自前で先生役を務めたということが始まりです。戦後新しい教育制度に則って、青々（せいせい）中学という男子だけの家族的な雰囲気で、生徒・教師・保護者の三位一体で出発しました。最初中学校だけで出発しましたから昭和38年には高校を併設し、そこで中高一貫教育をやり出したわけです。ちょうど中高一貫教育の走りのようであり、それがたまたま進学校ということになっていったということなんですね。

奈良時代も、出来上がったばかりの東大寺にシルクロードを通じて仏教文化がどんどん入ってきたものを東大寺で受け止め、それらを研究するために全国のお坊さんが皆さん東大寺に留学して来られて、そこで勉強をされ、それぞれ地元に帰られてから新しく宗派を開かれたということですね。当時の大学のような存在であったのと同時に聖武天皇が創建の志（こころざし）として、「動植悉く栄えんことを」というこの精神と合わせて、現在の学校の方針としているということですね。

過去への感謝と未来への責任

私はよく生徒に言んですが、今の若い人は「つながっている」という過去から現在そして未来へとつながっているという、そのことがなかなか理解しにくいんですね。皆さんお彼岸にはご先祖さんのお墓にお参りされますね。このお墓参りというのはどういうことなのかというと、過去のご先祖からずーっとつながっていて現在の私がある。それをずーっと未来につないでいかないといけないという責任。過去への感謝と未来への責任です。縦の関係はそういうことになるし、横の関係では身に着ているもの、食べるものもみんな、多くの人の手を経て口に入るということですね。ですから縦にも横にも重々無尽に絡み合って、私というものは生かされている。逆に多くの人たちを生かしていると、このつながっているという認識ですね、これが大事なことであるのではないかと思うわけです。

この過去への感謝と未来への責任が郷土を愛する心、国を愛する心、あるいは国境を超えた人類愛に発展してくれればという気がするわけです。「私の世界はこれだけだ、あとは全然知らない、関係ないんだ」という考え方の方が非常に多いわけです。ですからちょっと気に入らない、要求が満たされなかったら反抗に走るということが起きる。今は「楽して豊かに」ということが、もう小さいときから先行しますからこれは難儀なことです。

コーディネーター：それでは大学で教育者の立場でもいらっしゃる千田先生に、奈良における教育に

PDF Compressor Free Version

よる発展の可能性についてお話いただけませんか。

「奈良・丸ごと大学」構想

千田：　奈良における教育の可能性なんてそんな難しいことは私はとても言えないのですけれど、ただ今何人かの人たちのご意見を伺っているのですが「奈良・丸ごと大学」という大変面白い構想があります。

それは東大寺さん、法隆寺さん、あるいは西大寺さんそれぞれが大学の一部としてそこで講義を受ける。ですからハコモノの大学なんていうのはほとんど無意味である。奈良の神社あるいは寺院、そこがそれぞれ大学の一つのパートを受け持つ、そして多くの人々に奈良に来ていただいて、これは宗教文化になると思いますが、そういう勉強の場を奈良という町が提供できないか。

大学の教室に入って先生の講義を聞くのではなく、例えば東大寺さんに行くと長老のお話を聞く、これが大学の講義である。本来ヨーロッパの大学もこうあったと思います。ケンブリッジでもオックスフォードでもイタリアの古い大学でも、かなり宗教的なまとまりが学生たちを指導し、社会に送り込んでいた。ですから奈良全体、「奈良・丸ごと大学」という構想はこれは非常に実現しやすいのではないか。現代の大学の講義を聴くよりは、よほど立派な人間をつくるし、その人間が官僚になったときに立派な日本をつくると思います。奈良にはそういう、人間を変えていく力というのがあるのではないかと思います。

東大寺総合文化センターを準備

上野：おっしゃるとおりだと思います。東大寺でも勧学院というところで一般の人を対象にした講義を毎週しております。これには大学からも先生に来ていただいておりますが、我々も交代でやっております。今度新しく、前の東大寺学園の跡地に「東大寺総合文化センター」という大きな建物が出来ました。今までは収蔵庫はあったのですが、それは一般に公開するものではなかったのですが、その収蔵庫と同時に展示をする場所も設けました。そして今おっしゃったようないろいろな講義ができる講堂もちゃんと整備を致しまして、千田先生がおっしゃったようなことをこれから進めていきたいと、かように思っているわけです。

宗教家こそ担える世界の「Education」

藤沢：今千田先生がおっしゃっていた「奈良・丸ごと大学」って素晴らしいと思います。私はこれは大賛成です。教育というのはそんなに１年や２年で結果が出るものではないですね。今国際会議に行っていると海外の会議のテーマが最近はほとんど「Education」とか「人材育成」で、世界も今、やはり人間教育が大事だということになっています。

いくら経済を追いかけていても根本の経済を動かす人間ができていなければ、経済は暴走してしまうんだということで、本当にびっくりするほど先々週行ってきた中東・北アフリカ会議もテーマは「Education」でした。その前の月に行っていた中国でのアジア会議でもテーマは「Education」でした。人間をいかにして育てるか。それは何十年、100年と時間をかけてやらなければいけないことです。ただそれは時間がかかるからと言ってやらないのではなくて、今始めることが大事なのだ、それにはどうすればいいのかと。そして最近はそういう経済会議に必ずご登壇される方が宗教学者の方ではなく、宗教者の方がお話しされます。そして経済界の方がその方から学ぶということがすごく増えています。

そういう意味で奈良というのは、日常生活にかなりその部

PDF Compressor Free Version

分が入っていると思うんですね。ですから「奈良・丸ごと大学」をもっと拡大していただいて、一般の生活レベルでそこに学びに行くというように、子どものレベルからそういうことをもう一度見直していってはどうでしょう。

東大寺学園が最初は清々中学だったということは私も聞いたことがありますが、やはり全寮制でそういうことを始められたというのは教育のカリキュラムが素晴らしかった以上に、宗教家の方々が生活のすべてに面倒を見られたというところにすごくポイントがあるのではないかと思います。

そういう意味ではぜひ、「奈良・丸ごと大学」が、生まれてから死ぬまで学べる場として、どうデザインしていけるかということも考えてみたいなと思いました。

上野：　東大寺学園も最初は我々僧侶が教壇に立っていたんですね。それがだんだん難しくなって教えられないようになってきて（会場・笑）、それぞれ専門の先生方に教壇に立っていただくことになりましたが。

コーディネーター：時間が迫ってまいりました。皆さんに5分程度でございますが、言い足りなかったことも含めまして、本日は、東京から奈良・世界に発信するという意味でやっておりますので、奈良に対するエール、それから日本から奈良について世界に発するとこと、の2つの側面でお言葉をちょうだいできたらと思います。それでは順序は真ん中から始めさせていただいて、千田先生からでよろしいでしょうか。

行政との連携が決め手

千田：私は今奈良に住んでいますから自分にエールを送るということもおかしな話なのですが、そうですね。まず2つのことを申し上げましょうか。

1つは、「遷都1300年」というお祭りが成功のうちに終わったのですが、よく民俗学・フォークロアではお祭りを「ハレ」と言うんですね。晴れ着を着るから「ハレ」です。「ハレ」のイベントが終わると「ケ」の時代ということで、「ハレとケ」という2つの対立を出して説明してきたんです。これは明治以降、その後もそうです。ところが戦後は日本全国全部「ハレ」なんです。毎日毎日どこかでお祭り騒ぎをしているというか、デパートに行くとかいい洋服をお召しになって出掛けられる。晴れ着なんていうものがあまり目立たない日本になってしまったんですね。この勢いはもう止まらないかもしれない。365日ハレの日であるときに、奈良というのは1300年という大きなハレの舞台が終わったときすぐに、「ケ」の世界、静まった時代に入ることができない。そのときに絶えず小さいながらもハレのイベントを打っていかなければならない。

東大寺さんなんかでコンサートをやられるというのも、これも一種のハレの舞台をおつくりになっているということです。アーティストの方は非常に喜ばれるんですね。東大寺でコンサートができるなんていうのは、東京のコンサートホールでコンサートをするのとは全く違った意味があるわけです。そういう点で、「ハレ」というものをずーっとかなり持続させていくためには何が必要なのは、やはり行政との連携なんです。

例えば邪馬台国論争では、桜井市長は頑張っていらっしゃるんです。桜井市長はいつも枕元に卑弥呼がお立ちになるとおっしゃっているのですけれど、市長のところだけではなく、桜井の職員の方々全部のところに卑弥呼がお立ちになったら職員たちはもっと活躍されて、全国区の観光スポットになっていきます。

そういう企画力を身に付けるためにはどうしたらいいのかということが、これからの行政体の大きな仕事だと思います。今までの行政というのは企画ということに慣れていらっしゃらないために、どうしていいのか分からないという模索状態が続いているのだと思います。それをやると奈良県全体は毎日毎日イベントができるほどいろいろな歴史的遺産があるのだと思います。それが1つです。

PDF Compressor Free Version

もう１つは、元気が出る話になるかもしれません。西大寺から近鉄橿原線に乗っていただきますと、次の駅が尼ヶ辻という駅です。その近くに喜光寺というお寺があります。ここはむしろ東大寺さんと非常に強い関係があって先ほどお話しした延長線上で言うと、行基菩薩という方がいらして、もともと聖武天皇の時代に東大寺を造るとき、勧進を務められた方です。その行基さんの仕事には偉大なものがあった。ですから近鉄奈良駅を降りられたときに、行基像が建っているのをご存じですか。この像は東大寺さんに向かって合掌されています。それはあの東大寺という大きな寺を自分が勧進して造ったのだと。ところが残念なことに大仏開眼のときには既にお亡くなりになっていたんです。

かつての文化人の失恋をも癒した奈良

話は喜光寺に戻ります。先日喜光寺で新潟出身の会津八一（あいづやいち）の歌碑の除幕式がありました。会津八一というのはなぜ奈良県に来てたくさんの歌を作ったか、そのきっかけは早稲田を出て、もう一度新潟へ帰ったとき、初恋の女性に失恋をするんです。その心の痛みを癒すために奈良に来る。そこから会津八一の奈良における歌の活躍ともちろん美術史の研究が両立していくのですが、これが会津八一が奈良に来たきっかけです。

それから日本的な作詞家ですが、西條八十をご存じですね。彼も失恋をして奈良へ来るんです。それから島崎藤村をご存じですね。島崎藤村は教え子に振られて奈良へ来て吉野に行きます。島崎藤村は西行に大変憧れていたこともあるのですが、やはり失恋をして奈良に来るんです。皆さんと私とは同じ世代の方が多いと思うのですが、入学試験の問題で悩まされましたね。小林秀雄という訳の分からない文章を書く人。あれはもっとやさしく書けることを難しく書いている。あの難しい文章を書いていい気になっていた男も、若いときに失恋して奈良に来ます。彼は志賀直哉を訪ねるのです。つまり奈良は恋に破れた人を受け入れているんです。有名人でもこれだけあるのだから、無名人はもっといると思います。つまりそれほど心を癒す場所なのです。

母なる奈良

「京都大原三千院、恋に疲れた……」という歌がありますけれど、あんなのはうそですよ。京都に行ったってそんなに癒してくれないです。奈良のゆったりした風土性が、失恋した心を癒してくれるんです。ですから皆さんも時々奈良へ帰られるときは、何か心に痛手を負ったときかどうかはわかりませんが、奈良は傷心の人たちを受け止めて、例えば西條八十や会津八一、島崎藤村、あるいは小林秀雄という全国で名を上げる人物をつくりあげてきた、言うなれば、「母なる奈良」、これは大事にしたいなと思います。母親の如く感じて奈良に来た著名人、そして無名人もたくさんいると思います。このことを今後のポスト1300年で考えておいてもいいのではないかという気は致します。

奈良は癒しの場

藤沢 環境というのは人間の意識を規定していくものだと思いますが、そういう意味で奈良というのは、本当に自然に近い人間を育て上げる、つくり上げる何かを持っているのではないかという気がするんです。そういう意味で考えると千田先生がおっしゃっていた「原っぱでよかった」という言葉、これはものすごく大事なことなのではないかと思うんです。今奈良が1300年の後、発展しなければならないというときに忘れてはいけない言葉は、この「原っぱでよかった」という言葉、そして「癒しの場」ということにあるのではないかという気がします。下手に経済を盛り上げなければいけない、下手にもっといろいろなところにアピールして、何か人を呼ばなければいけないと急いではいけないと思うんですね。でも急がないと奈良の財政は大変なことになってしまうのかもしれないのですが。

PDF Compressor Free Version

奈良は人間を育て・高める場所

だけれども先ほど長老のお話にもありました。人間というのは、過去に感謝し未来に対する責任を負うと考えれば、やはり私は奈良というところに住む人間というのを未来に対してどうよりよい人間としてつなげていくかということで、まさに先生方がおっしゃった「奈良・丸ごと大学」のようなところ、奈良というのは人間を育て・高める場所なのだというところに柱を置いて、もう一度デザインし直してみるということは大事なのではないかと思います。

なぜそう思うかということをもう一言だけ申し上げますと、私は海外を回るとき途上国に行くことが多いのですが、途上国に行くと子どもたちは必死で勉強しています。とにかく必死で勉強しているんです。「何でそんなに勉強するの？」と聞いたら、「勉強したら仕事に就けて、仕事に就けたらお金がもらえて、お金がもらえたら初めて自分が食べたいものが食べられる、自分の着たいものが着られる。自由というものが初めて手に入るんです。だから勉強したいんです」と言います。ハングリーなんです。

今の日本にハングリーさを持てというのは無理だと思います。物もあるしお金もある。そしてそれをいちばん早くから体験していたのは奈良だと思うんです。総理を生み出さなかったことによさがある奈良というのは、まさにハングリーにならない歴史をずっと持ってきて、今なお1300年を迎えているということ、これはもう一度よく考えなければいけないのではないかと思います。世界がハングリーになって経済発展をしていく。発展したあかつきには、もうハングリーにはなれないから経済は停滞していき、悲しい世界遺産の町のように消えてなくなるのかというと、そうではないんだと。

新しい社会のモデルは奈良がデザイン

ハングリーさを持たなくても、人間はなお成長し豊かさを持って生きていけるのだという新しい社会のモデルというのを今世界は求めていると思うのですが、もしかしたらそれを奈良がデザインし実現したときには、放っておいても世界から学びに来る。昔奈良の僧侶が中国に学びに行ったときのように、世界中からどうしたら素晴らしい人間になれるかを奈良に学びに来る。

宗教の先を行く何かが生まれているのかもしれないけれど、これは夢のような話かもしれません。でも私はそんな夢を持って、次の世代へ向けて、どんな準備をどんな礎を、今の私の世代ができるのか奈良のために、そして日本のため、世界のためにって考えてみたいなと、今日はお話を聞いて感じました。ありがとうございます。

今こそ必要な先人たちの苦労への振り返り

上野：こういう不安定要素の多い昨今、やはりこの時期に、先ほど出ました行基さんをはじめ、そういう先人たちの苦労を振り返って、同時に郷土性というのか、この機会に奈良のよさをもう一度認識し直す、そしてそれを各地に発信していくということが大事なのではないかという気がするわけです。

コーディネーター：それでは時間は尽きないところでございますが、そろそろ最後の締めくくりにしたいと思います。

勇気と展望を持って

私は先般10月8日に開催されました「遷都1300年祭」に出させていただきました。そこで韓国、中国、日本の子どもたちが「花いちもんめ」という歌を歌って輪を描いていたんです。「花いちもんめ」と同じ歌が韓国や中国にもあるらしいんです。その歌の意味するところは、異なった共同体との出会いの場づくりだそうで、まあ今で言う婚活なんですね。同じ共同体のみで血が濃くなることを防ぐための出会いの歌、というような説明があったように記憶しています。その中で韓国、中国、日本の子どもたちが「私たちの平城遷都1300年宣言」を発表したんです。こ

PDF Compressor Free Version

こでご紹介しましょう。

「私たちは平城遷都1300年の歴史をよくかみしめ、勇気と展望を持って新しい次の時代を皆さんと一緒につくっていくことを誓います。」

今日本をめぐる世界情勢、特に東アジアにおいては、難しい問題が迫っておりますけれども、子どもたちのこの「勇気と展望を持って」という未来志向の言葉が非常に印象に残ったわけです。

今日は3人の方に奈良からそして東京から参加していただきまして、大変有意義な未来志向のお話が聞けたと思います。

上野長老からは、「過去に感謝し未来に責任」ということで、これは現在の私たち自身が、未来に対して責任を持って、歴史を紡ぎ、繋いでいかなければいけないということでした。

千田先生からは、「奈良・丸ごと大学」という具体的な構想もお示しいただいて、大変心強く思いました。非常に実現性のあるお話であると感じました。

藤沢様からは、自然という環境が奈良における人間性形成に大きく影響していること、世界がこれからますますハングリーになっていく時、奈良が果たす役割として、ハングリーさを持たなくても、人間はなお成長し豊かさを持って生きていけるのだという新しい社会のモデルとなりうるのではないかというお話を頂きました。

未来志向こそ奈良発展の鍵

遷都1300年を特集した新聞に、先ほど千田先生が紹介されました奈良女子大の中国からの留学生の話が掲載されていました。その留学生は、おじいさんから、「日中は過去に非常につらい歴史があった。けれども将来を担う若者はそれを乗り越えて協力していかなければならない。」と聞かされたそうです。そして彼女が「それなら自分は古代における日本と中国の関係を勉強したい」と言うと、そのおじいさんは迷わず「奈良で学びなさい。」とおっしゃったそうです。過去にはいろいろ歴史があったけれども、みなさんから出ました「学びの地」として、日本の奈良を選ばれたわけです。まさにこのおじいさんは「未来志向」そのものです。

我々はぜひ、この「未来志向」という言葉を大事にしていきたいと思いますし、何よりも今日このシンポジウムに参加されました皆さま方が、「未来志向」を持って奈良を支えていただくことが奈良発展の鍵ではないかと思う次第です。

今日は1時間50分という長丁場でございました。皆さん本当に最後まで熱心にお聞きいただきまして、ありがとうございました。

―了―

奈良発展の鍵（遷都1300年シンポジウムにて寄せられたご意見）

シンポジウム開催時にご参加された皆様から頂きました「奈良発展の鍵」をご紹介します。ご協力ありがとうございました。
なお、承諾された方のみ氏名を記載しております。（敬称略）

●遷都1300年という一大イベント（祭）の後、残された数々のヒントをどう生かしていくのか　だと思います。千田先生のユネスコスタンダードではなく・・・と言うお話に大変共感します。様々な視点からの奈良スタンダードを確立して、アピールしていくべきだと改めて思います。（飛田紀久子）
●いつもの年は、京都駅から奈良へ向かう人の流れが少ないと感じます。新幹線京都駅からJRや近鉄への導入に工夫が必要ではないでしょうか。
●観光客に優しいインフラの整備。（松村恵司）
●文化財の積極的公開による全国から観光に訪れる奈良を願っています。

PDF Compressor Free Version

●1300年遷都が成功した。この遺産を大切に、生きている町、生き続けている場所、日本の原点である大和を生かせる道。立派なリーダーが出てきて欲しい。他県と違うという個性をしっかり出して、美しい山河を残していく、心ややすらぐ場所を大切にしましょう。
●「発展」の中身は何か、何であるべきかの論議が必要と思います。
●奈良は「日中交流」で日本の中で一番長い歴史と経験を持つ。日中関係が停滞している状況下、今こそ「日中交流」の先頭に立っては如何か。
●宿泊施設を増やす。(松田薫)
●奈良の持っている素材を生かして観光産業の発展を計画的に実施すべきと考える。宿泊施設、食品、土産物の開発、大河ドラマの誘致。(辻本博圭)
●遺産の再建整備、仏教文化の平易化、奈良特産農産物の発掘、奈良料理の創作、古代景観の再構築(含、農地、林地、建物外壁等)、平城京中心からの転換、イベントを通じた発信・関心拡大、1300年以前の歴史発掘、民のカマドの再現、拝観税の徴収検討、京都的でない道
●観光交流文化のリーディングプレフェクチャーを標榜。「ポテンシャルNO 1県」、景観保全の徹底、歴史文化の再確認と発信力強化、人材育成、教育先進県を強調
●新しいものと古いものとが調和する都市。自然豊かな静かな都市。
●藤沢氏の言うように「新しい豊かさのモデル」を創ることだとは思います。しかしこれをどう具体化するかを考えていかなければなりません。そして母なる奈良になること、これが発展のプリンシパルです。まちがえても経済指標で計られる豊かさやハコモノに走ってはいけないと思います。
●日本人が自国の歴史に誇りと自信を取り戻すこと。そのことにより、奈良県が特色のある地域づくりを地道に続けてきたことを再評価されると思う。戦後教育を修正しつつある昨今であるが、奈良県としては慌てず焦らず、正しい歴史観を持つ若者たちが沢山生まれていくことを待つことが得策と思う。「学びの場」として発展する余地は大いにある。(小林茂樹)
●伝統の継承に基づく、未来への視野、思考
●「奈良と京都似ているけれど似ていない!」千田先生の発言の中で、京都とどのように勝負していくのか?私も同感。例:京野菜に負けない奈良の農産物を開発していくこと。県人会の方々がどのように奈良県を引き上げてくださるか、地元はどのように応えていくか等、たくさんあります。
●本物を見極められる大人を満足させられる国際的ホテルの存在(松下和正)
●観光対策について、歴史の良いところを掘り起こしてPRすると共に、古いものと新しいものの調和を考えた企画力(寺でのコンサート、芸能、祭等)
●都市としての経済的豊かさではなく、文化的豊かさの構築と全国&世界への発信。(観野福太郎)
●文化は国の力です。独自の文化を継承し、それらが新たな発想や新技術と結びついた時、初めて文化的に豊かな暮らしを実現したと言えるのではないでしょうか。次々と土地が上書保存され、人と情報が流動的な都会と違って、奈良は「場の力」が強みです。地域に暮らす人々が地元奈良の文化を発掘、発信し、最大限に活かし、さらにそれらの活動が地域のコミュニティ力を強化する。そんな「人々の力」「地域力」が、発展の鍵だと考えます。(月森砂名)
●京都との差別化は歴然としている。奈良は野太さ、京都は洗練　存在感は断然奈良である。
●奈良に不足しているもの:美味しい食事、もう少し洗練された食事を開発して欲しい。
●資産のアーカイブ化と再利用(柳沢富夫)
●1300年前のロマンを生き生きとした小説やTVドラマで魅力あるものを誰か作って欲しい。
●食文化の改善・・・葛、そうめん、酒等良いものはそのままアピールし、茶粥、柿の葉ずし等はモダンなプレゼンをする。(古代料理やフランス料理は中途半端)

PDF Compressor Free Version

〈平城遷都 1300 年記念特別寄稿〉

平城遷都 1300 年記念関連事業「国際書画友好交流展」を開催して

東京奈良県人会　会員
株式会社　ならや本舗　代表取締役
南　八郎（写真右より 2 人目）

平成 22 年に平城遷都 1300 年を迎えるふる里奈良、このテーマを文字数にすることたった数個にすぎないが何と気の遠くなる数字なのか、想像もつかない遥か遠い昔に思いを馳せた時、生れ故郷の奈良を出てたった数十年の若僧の自分に何ができるのか、どんな形で対峙して行ったら良いのか、思いを巡らせた末に辿り着いたのが国際書画展でした。

日本の文化である書画をおいては他にないと思ったのです。今でこそ数軒しか残っていない製墨業ですがかつては数十軒も有った地場産業だったのです。中でも 400 年以上の歴史を持って㈱古梅園の資料は貴重で、且つ文化的価値の高いものです。これを広く知って欲しく古梅園との関わりを持つ私の生家である南松園の協力も得て会場の特別展示室に数点の書画資料と秘墨を展示させて頂く段取りとなりました。幸いにも書道芸術社という書道界誌を出版している会社ともタイアップして、日本は元より、漢字の祖である中国、韓国からも参加して頂き、平城遷都 1300 年国際書画友好交流展という作品展を企画し、340 点もの作品が集まりました。県人会の諸先輩、県の担当者等関係諸氏の御好意や御協力を頂き最終的には平城遷都 1300 慶祝散華展と銘打ち、東京日本橋の奈良まほろば館にて 6 月 19 ～ 25 日迄の一週間プレ展を開催する事となり第一段階を終了してホッとしました。本展は、7 月 14 ～ 19 日迄の 6 日間、県立奈良文化会館を全館お借りし、日本、中国、韓国の作家達の 340 点の作品を会場狭しと展示し、会期初日のオープニングセレモニーを経てパーティーを盛大に開催しました。翌日は、奈良女子大学教授の松尾良樹先生に依る「古梅園の造墨と文化交流」と題した講演会が同会場で開かれ好評を博しました。今期中の来場者も延べ 2000 名に達したと伺いこの展覧会が、成功裏に終れた事と思い、そしてこの企画に携れた私共としては胸をなでおろした次第です。本年からまた 1400 年に向けて 1 年目が始まりました。次の 100 年後の日本が、奈良が、どのように歩んでいるのか見届けてみたい思いは有りますがそれは不可能というもの、次々世代に託したいと思います。最後に、この度の企画に御協力下さった沢山の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

遷都 1300 年記念関連事業「祝祭祀 あをによし」を開催して

東京奈良県人会　会員
特定非営利活動法人 Layer Box　代表
月森　砂名（写真前列左）

「奈良」の良さを、もっと多くの人たちに知ってもらいたい！

その一念で「平城遷都 1300 年祭」に機会を得て、実現できたことは、たいへん嬉しいことです。

昨年 10 月に奈良県文化会館国際ホールで開催した舞台【祝祭祀 あをによし】は、奈良発祥の能、地元の舞太鼓、北京から招聘した昆曲を、平城京を髣髴とさせる映像でつなぎ、多くの人たち（お客様の半数は、他府県や東京の方たちでした）にご覧いただき、奈良

PDF Compressor Free Version

の文化の奥深さをお伝えし、感動をお届けすることができました。

またプロの現場を体験する授業の一環として、埼玉の尚美学園大学、神奈川の関東学院大学に開放、舞台の記録映像撮影を担当してもらいました。

それがきっかけで、彼らは奈良にPV映像（プロモーションビデオ）を撮影に来ることになり、私が代表を努める特定非営利活動法人 Layer Box がコーディネーター、フィルムコミッショナーとなりました。

最初、学生たちが描いた絵コンテを見せて頂いて、「奈良」についてあまりに知られていないことに驚きました。

これではいけないと、各大学の授業にお邪魔して、奈良の文化資産や歴史についてお話をさせて頂いたところ、「奈良は奥深く広い、広すぎる」と教授。

それからは奈良に関する数十冊の書籍で猛勉強、テストが行われ、奈良に数回下見に来て、そして9月の撮影に臨んだのでした。

若草山、東大寺、県庁の屋上、大神神社、明日香村、十津川村。

よその若者たちが奈良をどのように見ているのか、たいへん興味深かったようで、多くのメディアにも取材、紹介していただきました。

今年も引き続き、彼らは奈良にやってきます。

また、2012年にはカンヌ国際広告祭に出品を予定しています。

奈良の素晴らしさ、美しさ、不思議度を、いかに彼らの感性で表現し、広く発信していってくれるのか。

さらに全国の大学にも声を掛け、もっと大きなムーブメントにできればと、夢は膨らみます。

せんとくん　頑張ってくれた

東京奈良県人会　会員
坂口　順治

せんとくんがよく頑張ってくれた。「仏の冒涜」と言われながら、ひこにゃんに迫る大人気で、お祭りを盛り上げてくれた。

青丹よし奈良の都は、180億をかけた大極殿の建立、360万人の入場者、2万人のボランティアの活躍で成功裡に終った。私は春夏秋と3回の奈良訪問を遂げた。故郷の奈良県は経済効果をもたらしたことであろう。

想えば江戸時代の後期に北浦定政の土地調査、明治の古社寺修理技術者、関野貞らの努力につづいて、明治の市井のボランティア、造園業の棚橋嘉十郎（1860－1921）らが中心になって溝辺文四郎らとともに、民間の募金運動を展開して平城宮址の保存運動を展開した。1910年（明治43）には遷都1200年祭を祝い、大正10年には「史跡名勝天然記念物保存法」に基づいて、国が史跡に指定した。「民活」が先行したのだ。

遷都1300年の事業には、隠れた立役者が多い。その一人は奈良県人会の奥野誠亮氏である。文部大臣をしていた40年前から奔走していた。記念事業は、文化財の復元や遺跡を守ることだけではなく、先人のなし遂げた気宇壮大なエネルギーと、国を愛する心を次の世代に繋げることであるという信念が原動力にあった。そして、国営公園事業として展開され、将来にも期待できる公園をつくった。

東京奈良県人会は、この事業に「提言」を発表した。国の基を据えた奈良文化の精神を世界に未来に向けて、具体的な指針を示してプログラムの実行とその努力を提案した。時代が変化する中で、歴史は過去の記述や回想ではなく、将来社会の構築であることを認識して、世界に示すことを示唆した。

遷都1300年はお祭りで終了した感じが残る。経済的には後の空白が怖い。平城京の存在は、鑑真和上の渡来で世界に示し、明治の時代には欧米列強によるアジア覇権の脅威にさらされた国を思う見直し運動であった。いま、世界的な人間危機に立っている中で、さらに奈良文化の普遍性を世界に訴えていく絶好の機会である。県人会の哲学を一層広めたい。

PDF Compressor Free Version

1300年の重み

奈良県東京事務所長
上田　龍嗣

仏像ブームを巻き起こした阿修羅像を15、6年前に見たことがある。興福寺国宝館は、平日だったこともあり、見学人は全くと言っていいほど居なかった。館内には国宝や重要文化財がずらりと並ぶ。阿修羅像にひときわ惹かれた。遠くを見つめる、あどけない童顔。それでいて自分の心が見通されているように感じた。澄み切った容貌はくっきりと脳裏に刻まれた。

東大寺戒壇院の広目天も物静かであるが、この像は力強さに満ちあふれている。眉間にしわを寄せ、鋭い眼光でにらみつける。「人様の役に立っているか」「恥じない生き方をしているか」自然と内省してしまう。

阿修羅や四天王は、国の繁栄・安泰を願って造像されたのだろう。現在は時の流れを経て彩色を落とし、素材の素朴さを感じさせる。発願した人の思いを超えて、見る人がそれぞれに内面を素直に映し出せる鏡のようになった気がする。1300年の歳月の重みか。今、パワースポットが人気であるが、奈良には自分を見つめる場所がある。

平城遷都1300年に思う

東京奈良県人会　賛助会員　木村篤太郎事務所
小志田　力雄

平城遷都1300年記念事業天皇陛下をお迎えしての式典も終わりました。

日本の國づくりは聖徳太子発布の「和」を原点とする17条憲法に始まりました。はじまりの都奈良を知る人はまだまだ少ないのではないでしょうか。と思われます。

私は木村篤太郎事務所に連絡員として長年お手伝いをいたしていますので戦後の憲法制定にあの混乱の時世に日本の平穏維持のために心血を注ぎ吉田一次内閣司法大臣として憲法問題に取り組まれた偉人木村篤太郎先生を忘れてはならない一つだと思います。

奈良を知ることは我が国発祥と歴史文化を知り未来に繋がると思われます。

平城遷都記念事業はこれで終わりではなく元年にして欲しいものだと思います。日本橋ならまほろば館の更なる充実と記念事業の継続（テレビ放映）実施されることを強くお願いするものです。

朱雀門

PDF Compressor Free Version

平城遷都 1300 年に 1400 年を思う

東京奈良県人会　参与会員
武田　家明

1300 年記念事業を大成功に導いた荒井正吾知事のリーダーシップと、全県一丸となって盛り上げてくださった故郷奈良の皆さんに心から敬意を表する。

だが、大成功に終わったからこそ、たった今から 1400 年を、1300 年を超える盛り上がりで迎えるにはどうすればよいのかを考え始めようではないか。今、考え始める誰もが、1400 年を生きて迎えることはないだろう。だが、その思考のスタートを切るのは我々である。

私のアイディアは、こうだ。

奈良は「やまと」という国号で、日本人の精神の原点として独立する。あたかも、カトリック世界の中心であるヴァチカンのように。

荒井知事が「関西広域連合」に参加されなかったのは慧眼であり、猛烈に賛同する。

奈良は、「１都１道２府 43 県」の単なる１県ではない。大阪や京都の「支県」でもない。

奈良よ、大樹に寄りかかるな。独自の道を行け。

奈良独立…。

1300 年を期に見果てぬ夢は続く。

平城遷都 1300 年に思う

東京奈良県人会　監事
菅野谷　信宏

平城遷都 1300 年奈良観光研究所特別企画の非公開の秘蔵を特別公開により拝観できるツアーに参加し、国宝・蟹満寺の薬師三尊像丈六仏から拝観した。薬師寺では国宝・東塔西塔内部を特別入堂拝観等ができ、興福寺国宝館の阿修羅像と山田寺仏頭も拝観できた。最古の飛鳥寺の本尊飛鳥大仏拝観後、萩王の日本料理を賞味した。礎石だけの元薬師寺では、一面に咲いたホテイアオイの花が美しかった。橿原考古学研究所所属博物館では菅谷文則所長の解説を聴講でき、金峯山寺では蔵王堂秘仏御本尊蔵王権現の特別開帳拝殿ができた。室生寺では五重塔初層が創建以来初めて開帳され特別拝観した。

世界に誇る奈良国立博物館正倉院展は平城遷都を記念して会期を延長され、宝物 71 件のうち初公開 14 件が出展されすばらしかった。11 月末に紅葉の名所室生寺を再度訪れ、談山神社、長谷寺などの紅葉を満喫した。伝統と格式のある奈良ホテルに連泊し、特別公開の秘蔵を拝観でき、平城遷都 1300 年の旅は思い出深いものとなった。

PDF Compressor Free Version

平城遷都 1300 年に思う

東京奈良県人会副会長　会長代行
尾上　桂二郎

昨年平城遷都 1300 年の種々の行事がいずれも成功裏に終わり、更に天皇・皇后両陛下の行幸・啓を仰ぎ全国区として大成功を納めたことは、県人として大層嬉しく喜ばしいことでした。

私ごとですが、一昨年暮れから体調を崩して入院生活が続いたり、自宅でおとなしくしていたので、誠に残念乍ら平城宮跡の主会場はもとより新装なった大極殿も未だ拝見しておらず、専ら TV で観ておりました。昨年は実行委員を始めとして県の関係部署の方々のご努力の結果か多くの奈良に関係した番組があり、折しも唐招提寺本堂の平成の大修理が完工して、その他薬師寺の復興工事、新薬師寺の十二神将像の紹介等々枚挙に暇無く、日本中に奈良は大仏様だけではないと知らせることとなり県人としては有り難いことでした。これを契機として郷土奈良の今後の益々の発展を期待したいものです。

万葉集に見る東国

東京奈良県人会　副会長
木村　忠夫

はじめに

平城遷都 1300 年に際し、東京奈良県人会では、「提言」の提出を始め、各種行事への参加など県・事業協会に積極的にご協力するとともに、県人会としての自主的取組も、記念シンポ、記念刊行、会員の方の関連事業への協力など行ってまいりました。

一昨年秋の文化交流会ではプレ 1300 年として、「奈良への想い —万葉集と私—」をテーマに、映画監督の河瀬直美氏にご講演をいただきました。その中で「地方都市の重要性」のお話があり、小生としては、1300 年記念事業において当時の地方—“東国”にももっと目を向けるべきではないかと提起させていただいた次第ですが、当時の東国は万葉集を通じても活き活きと目に浮かんできます。

万葉集については、小生、県人会に入ってから関心を持ったのですが、その後の竹内行夫様（現最高裁判事）の“ふるさと奈良の集い”でのお話にも啓発されて、さらに興味を深めている次第です。

万葉集に見る東国　一寸見

遷都 1300 年前後、万葉集に出てくる歌の現場体験もしてみましたので、この機会にご紹介させていただきたいと思います。

① さきもりまつり 2009：万葉時代・防人の道ウォーキング（平 21.11.1）

「多摩の横山ウォーキング」に参加し、防人・万葉人の心・気持を少しばかり共有しました。多摩の横山は、山というより丘陵でしたが、2 時間程度の山道を歩き、最後の「見返り峠」で、家族との別れを惜しむ場面に心を打たれました。「ここを越えると武蔵の国から相模の国に入る」、「はるかに見えるあの大山を目指して進めば、間違いなく足柄にたどり着く」との話を聞き、臨場感に溢れました。（万葉歌「赤駒を山野にはがし取りかにて多摩の横山徒歩ゆか遣らむ（防人・妻宇遅部黒女：巻 20－4417）」と「足柄のみ坂に立して袖振らば家なる妹はさやに見もかも（防人・藤原部等母麿：巻 20－4423）」を、全員で朗詠）

② 走水神社参詣（平 22.6.5）

ある勉強会の現地研修に参加し、横須賀の走水神社に参詣しました。景行天皇（第 12 代）の御代、

PDF Compressor Free Version

日本武尊（倭建命）がここより船で上総に渡ろうとしたが、海が荒れ渡れなかった時に、弟橘媛が海に身を投じて波を鎮めたと伝えられ、そのお２人を祀っています。その境内に「草枕旅の丸寝の紐絶えばあが手とつけろこれの針持し（椋椅部弟女：巻20－4420）」の碑がありました。

紙数が限られているので、以下、万葉集における東歌や防人の歌のほんのいくつかを例示させていただきます。1300年の時空を超えて、強く共感を覚えるものがあります。

・父母が頭かき撫で幸くあれていひし言葉ぜ忘れかねつる　（防人・丈部稲麿：巻20－4346）
・韓衣裾に取りつき泣く子らを置きてそ来のや母なしにして　（防人・他田舎人大島：巻20－4401）
・草枕　旅の憂へを　慰もる　こともありやと　筑波嶺に登りて見れば
　尾花散る　師付の田居に　雁がねも　寒く来鳴きぬ　新治の　鳥羽の淡海も　秋風に　白波立ちぬ
　筑波嶺の　良けくを見れば　長き日に　思ひ積み来し　憂へは止みぬ（高橋虫麻呂：巻9－1757）

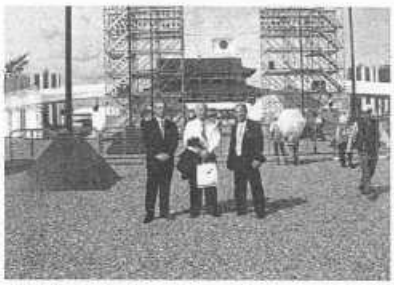
おわりに

遷都1300年記念事業において、小生としては、「市民・草の根の自主的な取組の重視とこれとの一体化・総合化」と「奈良以外の地方での取組との連携の重視」をお願いしてきました。

引き続き、今後、折々に留意いただければ幸いです。

平城遷都1300年記念祝典に参加して

東京奈良県人会　理事
植嶋　平治（写真左）



平成22年10月8日、平城遷都1300年祭のハイライトである記念祝典が天皇皇后両陛下ご出席の下、平城宮跡にて開催されました。東京奈良県人会からは西会長が招待され、上田副会長、植嶋理事が随行しました。

復元された第一次大極殿前に設けられた式典会場には世界54カ国の政府代表、国内の政財界関係者約1700名が出席、開会挨拶では荒井正吾知事が、都の造営は、東アジア諸国から多くのことを学んだ成果であること、また21世紀においては奈良県は東アジアの平和と繁栄に貢献してゆきたいと述べられ、会場からは大きな拍手がおこりました。天皇陛下はお言葉で、平城京に父祖の地として深いゆかりを感じるとされ、「桓武天皇の生母は続日本紀によれば百済の武寧王を始祖とする渡来人の子孫」と述べられ、皇室と古代朝鮮半島との深い縁を披露、「わが国の古くから伝わる文化を守り育ててきた奈良の人々の幸せを祈ります」と締めくくられました。

ステージでは平城京建都に貢献した藤原不比等に扮した狂言師野村万蔵さんはじめ、俳優市村正親さん、オペラ歌手の中島啓江さんらが楽劇を上演、華やかな往時の衣装を身に着けた演出に会場が包まれました。最後に日中韓の子供たちが「遷都1300年宣言」を読み上げ、平和・共存共栄を誓い、ちょうど尖閣諸島問題で揺れ動くわが国をとりまく東アジアのあるべき姿を諭される場面でもありました。

PDF Compressor Free Version

平城京あとに記念碑を

東京奈良県人会　理事
奥井　貞男

平城遷都1300年の2010年があっという間にすぎました。記念すべきこの一年、奈良にとって大変大事な年となりました。万博のようなパビリオンのような建物はありません、しかし大変貴重な大極殿、朱雀門を中心とした平城京跡がこれから何百年という歴史をきざむことと思います。

この平城京の土地は今急に広場があったわけではありません。この歴史的な貴重な土地を後世に残そうと大変な努力した人々のことを忘れてはなりません。行政機関もこのように努力をしていただいた人々のことを決して忘れることのないように顕彰する必要があります。

このように苦労していただいた人々のことを記憶にとどめておくために記念碑を建立して後世に残す必要があると思います。

今日あるのは誰のおかげかを良く考えていくことが大切だと思います。

方言集編纂余談

東京奈良県人会　理事
中村　慶一

このたび東京奈良県人会が平城遷都1300年を記念して小冊子「奈良県の方言」（写真）を刊行し、会員向けに配布するにあたり、私も菲才の身を省みず編集委員の一人として参加しました。

手始めは、先ず「語彙」集め。できるだけ沢山の人からこういう言葉があるよ、こういう遣い方がされていたよ、と材料の提供を受けるのが理想的ではありますが、なにせ会社勤めの傍らの限られた時間の中でやるもので、生のインタビューを数多くこなすことができず非常に不十分な収集に終わったことが悔やまれます。それでも一般の刊行物の中から参考となるものが相当数拾えたことは収穫です。欲を言えば、生きた人間の息遣いが感じられるような方言使用例がもっと数多く収載できればよかったと思っています。

方言といえば、卑俗な言葉遣いであるように感じられることもありますが、中々どうして雅びな響きのもの、古典文学に出てくるものが数多く見られます。こういうのをできるだけ探し出してみようか、というのがもう一つの仕事となりました。渉猟した文学作品は、万葉集、竹取物語、枕草子、紫式部日記、土佐日記、今昔物語、平家物語、伊勢物語、倭名類聚鈔、古今著聞集、假名手本忠臣蔵、世間胸算用、双蝶々曲輪日記、鑓の権三重帷子、等々。これらの殆どは都が平城京から平安京に移って以降のものですが、これらの中に今は方言とされている言葉が生き生きと遣われており、当時はそれらが標準語であったことが偲ばれ、その幾つかを収録しました。なお、渉猟したといえば聞こえはいいが、精を出して図書館通いをした訳ではありません。現在では、インターネットで目当ての言葉を検索して、それが出ている作品を探し出すことができるので大助かりです。

この作業は随分頭の体操となり、日ごろ古典文学といかに縁遠くなっていたかを思い知ることになりました。できれば、時間を見つけて古典文学鑑賞に再挑戦し、日ごろ使っていない頭の領域を活性化できればと思っています。殊に物語というのは、口に出して読んでよし、耳に聞いてよしで、私見ではありますが、そのリズムが身につくと、日ごろのビジネスで良い文章を書く上にも活かされるの

PDF Compressor Free Version

ではないかと思われます。

なお、一口に奈良県といっても、語彙に限らず音変化、文末の訴え言葉、間投詞、敬語用法などいずれをとっても地域、地域で異なることがあります。地域ごとの文法的分析や会話例を紹介するくだりは、奈良県教育委員会ご提供の資料から抜粋しました。奈良県在住・出身の人にとっても目新しい、耳新しいものが提供できることになったのではないかと思います。

ちなみに、かの戦国武将「島左近」は、ご承知のとおり、大和の国の産であります。「三成に過ぎたるものが二つあり。島の左近と佐和山の城」と謳われたその驍勇が日ごろ身近な人たちとどのような言葉を交わして暮らしていたものか、往にし辺に思いを馳せるところであります。

ここでもう一つ欲をいえば、印刷物は歌でいえば歌詞だけで、血の通った抑揚は表出できません。財政的な余裕があれば、地元の人が実際にしゃべったものを録音し、ホームページで聞きだせるようにできればと思うのであります。

時空を越えて

東京奈良県人会　理事
中村　陽子（写真後列左）

1300年前、私達はどんな暮らしをしていたのでしょう。どんな衣服を纏い、どんな物を食べ、どんな家に住んでいたのか、思い描くだけで、時空間が広がってまいります。奈良には、その時々の確かな記録が残されています。私達の生活の中で1300年前の当時の生活が、1300年以上の間、消滅せずに息づいている、こんな豊かな贅沢なことはありません。

正岡子規の「写生」です。リアルな時空を越えた景色が見えてきます。つくづく奈良に生まれ育ってよかったと思います。1300年後も、同じような平穏な暮らしが続いていることを祈りたいと思います。

『青丹よし奈良の佛もうまけれど　写生にますハ　あらじとぞ思ふ
天平のひだ　鎌倉のひだにあらで　写生のひだに　もはらよるべし
飴賣りのひだハ　誠のひだならず　誠のひだハ　美の多きひだ
人の衣に佛のひだをつけんことハ　竹に桜をつげらんが如し
第一に線の配合其次も　又其次も写生写生なり』

東院庭園広場

PDF Compressor Free Version

奈良の将来について考える～奈良県養徳学舎の学生と共に

将来の奈良を担う若手を代表して、首都圏に通学する奈良県出身の大学生寮である「養徳学舎」の寮生に故郷奈良への思いを二回にわたり自由に語っていただきました。ここではその要旨を掲載し、若手による奈良への応援メッセージとします。(敬称略)

＜第１回＞　日時：2010年11月21日（日）　場所：養徳学舎
参加者（大学名 学年）：福本晃丈（明治４）、池田翔大（東大３）、
橋本賢太郎（東大３）、浦東利久（東大２）、井上達彦（東大１）
＜第２回＞　日時：2010年12月19日（日）場所：養徳学舎
参加者（大学名 学年）：池田翔大（東大３）、橋本賢太郎（東大３）、
田村圭吾（東工大３）、浦東利久（東大２）、明田侑歩（東大１）

コーディネーター：東京奈良県人会　理事　植嶋平治

奈良の将来への提言に向け、まずSWOT分析を行った。奈良は平城京をはじめとする歴史遺産に恵まれ、寺社仏閣の数・質においても他県を圧倒している。このように観光資源が豊富であるだけでなく、大阪・京都といった大消費地に隣接するという立地、また自然環境にも恵まれている。しかし、一方で周辺県と比較すると新幹線の駅がないなど、交通の便が悪く、県内の産業衰退と相まって若者たちの流出が進んでおり、現状は決して芳しくない。(図1)

図1 SWOT分析

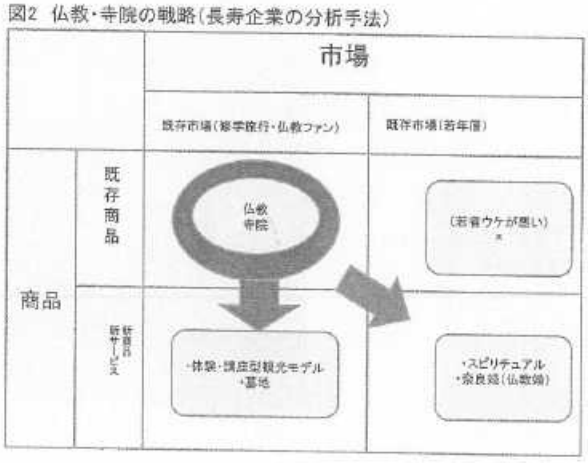
強みStrengths ・観光資源、大阪・京都に近い立地 災害の少なさ	弱みWeaknesses ・交通の便が比較的悪い、 県外就職、保守体質
強みを拡大する戦略 ・宿泊施設の整備	弱みをカバーする戦略 ・外部へのPR
・1300年事業の検証・継続 機会を拡大する戦略	・高等教育機関の創設、意識改革 脅威を小さくする戦略
・1300年事業、歴史ブーム 道州制 機会Opportunities	・若者の県外流出、自治体財政 危機感の薄さ 脅威Threats

とはいえ、歴史ブームにも支えられ、先頃開催された平城遷都1300年事業は一定の成果を挙げた。この成果は奈良県の将来の発展の端緒となりうる。今後の取り組みの如何によっては、今ある強みを益々発揮し、更には弱みを強みに変えていくことも可能であると思われる。

その取り組みを実践する上で最大の課題は財政上の制約であろう。自治体の財政は軒並み厳しく、行政に期待するだけでは奈良県の活性化は図れない。となれば、民間主導による活性化策がその成果を左右すると予想される。

SWOT分析の結果を踏まえ、日本の長寿企業の分析の枠組みを参考に今後の奈良の方向性を考えた。日本の長寿企業の事例を見ると、既存の技術を上手く活かしながら新しい商品・サービスを開発し、その市場を広げていったことが分かる。ここから、前回の奈良県のSWOT分析の成果を応用することが出来ると考えられる。奈良の強みを利用して、新しい市場にアピールする方法等を考えてみた。具体的には、以下の「奈良講座」が挙がった。(図2)

図2 仏教・寺院の戦略(長寿企業の分析手法)



PDF Compressor Free Version

「奈良講座」

奈良には毎年数多くの生徒達が修学旅行に訪れる。しかし、奈良での体験が彼等の記憶にどれほど残るのであろうか。

例えば、今回参加した学生は広島に修学旅行に行った際には、被爆者の体験談を直接聞く機会があった。被爆地を単に眺めるだけで体験することができない生々しさが深く記憶に刻まれたという。それに比べ、奈良への修学旅行は多くの生徒にとっては興味のない寺社仏閣を巡るだけで、退屈な印象しか与えられていないのが現実ではないだろうか。

白熱する討議

奈良への修学旅行にも、詳しい人物から直接解説を受ける機会を設け、積極的に奈良県の魅力をアピールするようにしてはどうだろうか。ただ「見るだけ」の観光とは違い、元々興味がない生徒にとっても面白いと感じられるように工夫を凝らすことも可能であろう。このとき受けた奈良の印象が将来的な観光客誘致にもつながり、こうした体験的なプランが様々な学校を惹きつけることになると思われる。

他にも観光については、仏式結婚式やパワースポットとしてのPRなど、若い世代を志向した案も多く出た。これらを実際に運用するのは困難が伴うであろうが、今回の案に共通するのは、強みである観光資源の豊富さをどう活かすかという視点である。現状に甘んじることなく積極的に奈良を印象づけ、市場を拡大していくことが必要であるということを確認した。

「故郷　奈良へのメッセージ」

2010年、奈良は平城遷都1300年を迎えた。ヤマト朝廷の昔から奈良は政治・文化の中心であり、まさに日本の歴史を形作ってきた土地であるといえる。こうした歴史的風土と詩歌にも謳われた豊かな自然がこれまでの奈良県を支え、我々の穏やかな県民性が育まれてきた。

しかし誠に残念ながら、最早奈良に昔日の面影は無いと言わざるをえない。産業の衰退と相まって人口は減少の一途を辿り、自治体財政も極めて厳しい状況にある。全国的にも奈良の存在感は薄れてしまい、奈良の行先を憂う声ばかりが耳に届く。我々は、この恵まれた奈良という土地に甘んじてきたのかもしれない。

<第2回>参加者の皆さん

今回の討論で我々が同じくした認識は現状維持ではなく、外へ向けた積極的な発信が必要だということである。それも他の真似に終わらない、奈良独自の強みを活かしたものでなければならない。外部からの意見も取り込みながら、「攻めの姿勢」を貫くことが悪しき保守体質を打ち破り、これからの奈良を作るために不可欠であろう。

PDF Compressor Free Version

ふるさと奈良の集い

平成22年11月18日、平城遷都1300年記念シンポジウムに続き、椿山荘「オリオン」の間にて、荒井正吾奈良県知事主催による「ふるさと奈良の集い」が開催されました。

以下その概略をご紹介します。(敬称略)

司会：まず、主催者であります奈良県知事・荒井正吾（写真中央）がごあいさつ申し上げます。

荒井：今年も椿山荘にお世話になりまして、このように盛会に縁（ゆかり）の会を開催できましたことを本当に感謝申し上げ、ありがたく思います。

今日の会のアレンジですけれど、縁（ゆかり）のある地域をなるべくひとつのテーブルにしておりますので、高田、奈良、郡山にしろ地元の市長さま、県会議員さまがなるべくその話の輪に入っていただけるようにしております。それが多少ずれたりするかもしれませんので、そこには余計にいすを置いておりますので、名簿を見て、あれが来ているならということで、また席を移っていただけたらということでございます。催し自体、この舞台に注目していただくのは、最初の数コマだけでございまして、あとはにぎやかにご交流・ご懇親していただければという趣向にしておりますので、ぜひごゆっくりしていただけたらと思います。このようにたくさんお集まりいただきまして、声を掛けさせていただいているほうとしてはホッとしております。どうぞごゆっくり懐かしい話に花を咲かせていただければと思います。ありがとうございました。(拍手)。

司会：東京奈良県人会会長・西　与吏郎よりごあいさつを申し上げます。西会長、よろしくお願いいたします。

西会長：今年も、大勢の皆さまにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。平素は県人会にご支援を賜り、ありがたく感謝いたしております。郷土・奈良も1300年という大にぎわいで、本当にこういうふうに「にほふがごとく今盛りなり」ではありませんが、そういった感じの奈良をつくづくとありがたく思っております。これも事業の大成功であったのではないかと思います。県人会も先ほどシンポジウムを開きまして、先生方に奈良の未来についていろいろと語っていただきました。これからの奈良の未来像、そして何か本当に希望がある奈良ではないかと、私たちは心から願っている次第でございます。どうか奈良のますますの発展をお祈りいたしまして、簡単ではありますがあいさつといたします。

○藤本昭広　奈良県議会副議長の挨拶につづき、参加者の一部が司会より紹介された。以下お名前のみ記載します。

県立図書情報館館長・千田稔、シンクタンク・ソフィアバンク副代表・藤沢久美
奈良県議会議員・田中惟允、　五條市長・吉野晴夫、　衆議院議員・大西たかのり
上北山村長・福西　力、大和郡山市長・上田　きよし、前衆議院議員・奥野信亮
大和高田市長・吉田誠克、十津川村議会議長・松實豊隆、衆議院議員・吉川政重
河合町長・岡井康徳、衆議院議員・高市早苗、奈良県議会議員・神田かづよ
奈良県議会議員・小林茂樹、参議院議員・前川清成（祝電にて紹介）

PDF Compressor Free Version

衆議院議員・馬淵澄夫（秘書）、堺屋太一

司会：それでは続きまして、乾杯とさせていただきたいと思います。乾杯のご発声は、シンクタンク・ソフィアバンク副代表で、先ほど「遷都1300年記念シンポジウム」にもご登壇いただきました藤沢久美様にお願いしたいと存じます。（奈良県出身地）

藤沢さん（生駒市）：はい、こんばんは。先ほどもシンポジウムでお話しをさせていただきましたのに、また大変な先生方の前でこんなに高いところに立たせていただきまして、恐縮でございます。シンポジウムの内容をご参加いただいてない方にも少しだけお伝えしたいと思います。

シンポジウムでは千田先生、そして上野長老から大変多くの学びを頂きました。そしてあらためて思いましたことは、20世紀という世界が物質的にそして経済的に進歩したにもかかわらず、人間というものがその進化・進歩に追い付かなかった。この21世紀は、人間の進化・進歩が大変求められている。さてその人間の進化はいかなるものか。その方法は、「奈良にあるのだ」と。今日はそのことを先生方から教えていただきました。千田先生は、「日本誕生の地」とも教えてくださいましたけれども、21世紀の人類が新たに生まれ変わる。そのスタートが奈良から起こるのではないかと。そういう意味で、我々は今、未来の奈良の人たち、そして日本の、世界のひとたちのために何ができるのだろうと。今夜は皆さんと、奈良県人として誇りを持ってあらためて、そんな議論ができるといいなと、そんなふうに思っております。

それでは乾杯をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

あらためまして皆さまのご健康とご発展、そして奈良が世界を平和に、人類の進化を導く素晴らしい場所となりますことを祈りまして、乾杯をさせていただきたいと思います。乾杯！

（歓談）

司会：中締めのごあいさつを、日本環境ジャーナリストの会副会長としてご活躍中の村田佳壽子様にお願いしたいと思います。

村田さん：皆さまこんにちは。日本環境ジャーナリストの会の村田佳壽子と申します。

日本人にとってどこの出身の人であろうと日本という国にとって、この奈良というところが長い長い悠久の歴史を持ち素晴らしい文化を有している、日本人の誇りであるということは誰もが認めるところだと思います。昨今は大変地球環境問題の荒廃が言われておりますけれども、奈良の人々は悠久の昔から自然とともに自然を愛し、また自然に愛され、自然と一体となって幸せに暮らすということをずっと続けてこられた方たちです。これからの21世紀の新しい生き方は、実はそういう古い歴史を持つ奈良にこそ、ヒントがあるのではと思っております。

私は環境ジャーナリストの会のほかに、アメリカのワールドウオッチ研究所の日本副代表も務めておりますが、この創設者であるレスター・ブラウン博士は実はアメリカオバマ大統領のブレーンとして、グリーンニューディール政策を提案した人物でもあります。オバマ大統領は先日神奈川県の鎌倉に参りまして、大仏をだいぶ楽しんで帰ったようですが、今度はできるだけ早い時期にアメリカのグリーンニューディール政策とともに、日本のグリーンニューディール政策をこの奈良から提案して、そしてオバマ大統領にもう一度日本に来ていただいて、そのときには広島の平和記念館とそして、この奈良に訪れていただいて、奈良の大仏を愛でていただきながら、奈良発の、奈良ではのグリーンニューディール政策というものについて語り合う機会を持っていただけるよう、私からレスター・ブラウン博士に提案したいと思っています。この奈良にこそ日本を救い、地球を救い、環境をよくすることで経済をよくするというエコ・エコノミーの原点がこの

PDF Compressor Free Version

奈良にある。そして外の人たちにもっともっと奈良のファンをたくさん増やしていけるよう、奈良からいろいろなところに発信していただけたらと思います。

これからもどうぞ、この奈良の皆さんが日本を救うために、環境をよくするためにいろいろなところで、各地で頑張っていただけたら、そして奈良と奈良県民の皆さまのますますのご発展をお祈りして、私の中締めのあいさつにさせていただきます。ありがとうございました。

平成23年東京奈良県人会新年賀詞交歓会

東京奈良県人会の平成23年度賀詞交歓会が、さる2月3日（木）NHK青山荘にて開催され、60名が参加を得て、新春の慶びも新たに盛大に開催されました。

司会（植嶋理事）：開催に際しまして、主催者を代表し、東京奈良県人会会長代行の尾上（おのえ）よりごあいさつ申し上げます。

尾上会長代行：今日は旧暦でいいますと1月1日になりますので、おめでとうございますでもいいと思います。けれども今日は節分で方々で豆まきをして、「福は内」と言っているそうであります。奈良県人会には鬼はいないので追い出すことはないでしょう。鬼がいたら東大寺南大門の仁王様に踏みつぶしてもらうことにして、我々は、「福は内、福は内」と、今年もいい年でありたいと思っております。

昨年は、「平城宮遷都1300年」ということで、いろいろ会合がありましたし、テレビでも随分、「奈良、奈良」と出てきまして、日ごろおとなしい奈良県も、これだけ騒いでいただけるとうれしいなと、その調子で今年から来年もまたずっと、奈良県のことをいろいろなところで取り上げていただきたいと思うのでございます。

ただこれは私の持論なのでありますが、ひとつだけ残念なことがあります。それは宿泊設備の割合からいうと、全国で40何番目ぐらいなんですね。これだけは何とかならないかと思うのですが、これは県の力でもしょうがないのではないか。建てるのは大体民間会社が建てるのであって、その辺の兼ね合いがうまくいくといいなと思っております。私は変な手当てを出すくらいだったら、旅館手当てでも出したらどうかと思ってはおります。まあ余計なことを申し上げました。

とにかく奈良県というところは昔から開けていた。1300年ではないんですね。その前の飛鳥時代、纏向遺跡の弥生時代からずーっと続いているわけでございます。なぜだろうか。日本国中でいちばん農耕に適した奈良盆地であったし、今私どもは夏は暑くて冬は寒いところで嫌だ嫌だと思っておりますけれども、ほかのところに比べれば、ばかみたいに雪が積もったりもしませんし、非常にいいところであったと思います。

ひとつ、奈良県の人というのは非常に鷹揚でございまして、おれがこうやってやろうということを何もしないのですね。先ほども話をしたのですが、私の大好きなお酒も奈良が発祥の地でありますし、例えば墨は全国の90何パーセントを奈良でつくっているとか、そういうものがいろ

PDF Compressor Free Version

いろあるのですから、もう少し売り込んだらどうだろうか。そのためには我々県人がしっかりして、やらなければいけないのではないか。

年頭に当たって、今年も一生懸命頑張りたいと思っておりますので、今年もよろしくお願いいたします。

司会：本日は、奈良県東京事務所の上田所長から、平城遷都1300年記念祭の成果などを祝典の映像も交えお話ししていただきます。

上田所長：昨年は1300年祭で大変多くの方に奈良にお越しいただきました。ここにお集まりの皆さま方にもご支援ご協力いただいたおかげと大変感謝しております。どれくらいお越しいただいたかと申しますと、平城宮跡会場には363万人です。当初計画は250万人だったので、実に1.5倍の方にお越しいただきました。また、全県下で盛り上げていただくため、各地域でイベントが実施されました。社寺では秘宝・秘仏の特別公開もしていただきました。そのおかげで、県内各地で約1380万人の方にお越しいただいております。平城宮跡と県内各地を合わせますと、実に1740万人の方にお越しいただきました。これは1月から10月までの結果で、延べ人数です。12月末で閉幕しましたが、まだ取りまとめに時間がかかっておりまして、2月末か3月の初めには最終の結果が報告できる予定です。（最終の1300年祭来訪者は2140万人）

これだけたくさんの方においでいただきまして、どれだけの効果があったのかと申しますと、宿泊者数は2割増しでございます。先ほど尾上代行もおっしゃいましたが、奈良県内の宿泊施設数は全国第46位でブービー、部屋数は最下位です。奈良県で記念行事を実施しても、大阪のほうにだいぶ泊まられたのかなあと、残念な思いを致しております。

次にどれだけのお金を使っていただいたか。我々行政マンとしても、この辺は押さえておかなければなりません。経済波及効果はまだ出ておりませんが、実質の消費額、皆さんが実際にどれくらいお金を使っていただいたかと言えば、日帰りの方は大体1人当たり5800円、宿泊者は3万3700円です。来訪者数の1740万人は延べ人数で、平城宮跡に行き西の京にも行かれたりしますので、実質の人数は大体2分の1と試算しておりまして、全部で約1006億円という統計数字が、今出ております。これも10月末までなので、12月末までではもう少し伸びるということです。

これは全部が奈良県内で消費していただいたお金ではありませんで、県内は6割の600億円、そして県外が400億円となっております。ここにお集まりの方々が奈良へ行くとなると新幹線などに乗ることになりますので、そういうお金が400億円になっています。

今日はハイライトとなりました、「平城遷都1300年記念祝典」の映像を短く編集しましたのでご覧いただきたいと思います。これは10月8日に天皇皇后両陛下をお迎えして行いました1300年祭最大の行事です。

〔奈良県東京事務所ご提供によるDVD「平城遷都1300年祭記念祝典の概要」を鑑賞〕

新年賀詞交歓懇親会

（奈良県東京事務所上田所長による乾杯のご発声で懇親会の部が華やかに開会され、続いて国会議員の皆様からご挨拶をいただきました。以下敬称略）

高市議員：皆さまと一緒にまた新年をお祝いできることをとてもうれしく思います。今朝でしたかね、韓国の歌手のきれいな女性たちのKARAというグループが来日するというので、

PDF Compressor Free Version

空港で多分韓国人記者の取材を受けているときに、「新年早々皆さん集まっていただいてありがとうございます」というようなことをおっしゃっていたので、あらー、旧正月でお祝いするのかな、知らなかったなと、そんなことに気付かせていただいておりました。

「平城遷都1300年」も皆さまとともに盛り上げて、成功したと思いますけれども、せんとくんはまだまだ根強い人気です。先般も奈良県の旅館の方々が、これからも引き続き盛り上げていこうということで、東京に出て来られてキャンペーンをされておりました。そのとき、奈良まほろば館の前でせんとくんが道端に出ていると、ファーッと釣られてお客さんが入っていくんですね。せんとくんが休憩時間になるとお客さんがあまり入って行かないという光景を見ましたので、これからも「せんとくんまんじゅう」とか非常に手ごろなお値段で全国的に喜ばれるおみやげもありますので、盛り上げていきたいなと思っております。

大西議員：今年の奈良は大晦日から年明けにかけまして、大変な雪が降りました。実は私も大晦日は橿原にいたのですが、翌日1日に、川上に帰れなかったのです。芦原峠あたりもぼちぼち50センチくらいの雪が積もりまして、特に被害が出ているのが東吉野村、黒滝村、吉野町も吉野山とか、ちょこちょこ木が倒れたり、折れたりということで被害が出ていまして、まだ山の奥のほうには雪が残っていて入れませんものですから、被害はまだはっきりしません。昭和38年に「三八豪雪」というのがあったのですが、場所によりますとそのときよりも、雪が多かったみたいで、私はさすがに生まれていないのですが、昭和19年の戦時中に大豪雪がありまして、それ以来の雪だとおっしゃるお年寄りの方もいらっしゃいました。その後は寒い日が続いておりますけれども、雪がパラパラ降ったりとか、私なんかもガキのころの思い出がありますけれども、ここ数年では本当に昔の、ちょっと前の、冬らしい季節を迎えているというところであります。

（この他、馬渕議員秘書、前田議員秘書からご挨拶、前川議員から祝電をいただきました。）

司会（植嶋理事）：最高裁判事でいらっしゃいます竹内様がお見えでいらっしゃいます。せっかくでございますので、ここでごあいさつをお願いしたいと思います。（奈良県出身地）

竹内さん（奈良市）：私も正真正銘奈良市の出身でございまして、近鉄奈良駅から少し北のほうへ行きますと奈良女子大がありますけれども、そのすぐ北側、聖武天皇御陵までは行きませんけれども、女子大のすぐ北側に家がございまして、子どものころから大学まで私は、そこで育ったわけでございます。

先ほどDVDを見せていただきました。私がいちばん感激しましたことは、陛下のお言葉で最後に、奈良の人々に対する歴史上のいろいろな役割についてのねぎらいの言葉がありましたけれども、あれは本当にいいお言葉を頂いたなあという感じが致しました。

私は外務省に入りまして、2004年まで外務省におりましたけれども、事務次官を最後に退官いたしまして、最高裁判所のほうは約2年半ほど前から行っております。

今平城宮址の映像を見ておりまして思い出したのですが、外務省を辞めてしばらく時間があったものですから、その間実は平城遷都1300年実行委員会の理事なるものに最初から参画をさせていただきました。最初の計画というのは、実は愛知万博をもう一度奈良でやろうという、そういう構想であったわけです。上海万博と時を同じくして、愛知万博の再来ということで人を集めて大パビリオンみたいなものを平城宮址に建てて、いろいろなことをやろうという計画でした。ところが私はそのころから、どうもそういうアイデアには疑念を持ちまして、当時は自由な身であったものですから少し意見も言わせていただきました。奈良には古来から持っているものがあると。それは歴史であり文化であり、現実にお寺がある。例えば秘仏の公開を同じ時期にやって、ツアーを組むというようなアイデア

PDF Compressor Free Version

がいいのではないかというようなことも申したのでございます。

その後、コンセプトが変わりまして、奈良にあるものを利用する、それをむしろ今の世代の日本の人々に見てもらいたいということで、平城宮址にパビリオンを建てるというような無謀なことはやめて、むしろ眠っている・知られていないお寺も、この機会に皆さんに知ってもらうという、そういう機会になったと思います。実は私には、これがいちばんうれしいことでございまして、先ほどのDVDを見ても、そのように思いました。

長くなって恐縮ですけれども、最後に、数年前にこの奈良県人会のこういう席でせんえつながら申し上げさせていただいたのですが、こういう機会をもって、当時の文化に対する関心をもう一度呼び起こしてほしいと。そこで例えばということで申し上げたのが万葉集なのですが、それもNHKはじめ皆さんが全国的にもう一度関心を呼び起こしていただきたいと。あれは本当に日本が世界に誇るアンソロジーですね。あの時代にあれだけの社会の階層、普通の人から天皇に至るまでのそれぞれの社会の階層の人が歌を作る、詩を作る。そしてそれを全部まとめる、これはもう文学史上、大変な大事業だったと思うんですね。大体4000首くらいあるのだそうですが、大変な事業をされた。それに対する関心というものをこの機会にもう一度呼び起こすことができればと思っていたのですが、それも大成功だったのではないかということで、昨年は奈良にとって非常にいい年でした。まあそういう意味では日本民族にとってもいい年であった。まあ別な面でいろいろ問題はありますけれども、そういう意味ではよい年であったのではないかということを、先ほどDVDを見まして、思いを新たにしたところでございます。

司会：それではここで新しく県人会に入会された方、そしてまた久々顔を出された方にお言葉を頂戴したいと思います。

植田さん（天理市）：日本橋にございます、「奈良まほろば館」という情報発信・アンテナショップの担当をしております副所長の植田でございます。皆さま方のおかげで平成21年4月にオープンしてから相当の方にお越しいただきました。東京の方って非常に奈良を好きな方が多いのだなあと、私どもが奈良にいるときには全然分からなかったことが分かったりしておりまして、いろいろ勉強させていただいております。ここに先輩方がたくさんおられますが、今は1300年祭が終わって本来今年からが、まほろば館ができた真価が問われるときだと私は思っておりますので、奈良まほろば館のPRもどうかよろしくお願いします。

福田さん（吉野町）：私の兄貴も本日来ておりまして、兄から「お前も出て来い」と言われて出て来ました。現在神戸に誘致されているスパコンの関係で仕事をしています。事業仕分けで有名になりましたが、どんなものかと関心を持っていただけたらありがたいです。

竹村さん（奈良市）：近畿日本鉄道の東京支社長を仰せ付かっております。今回県人会としては初めての参加をさせていただきました。平城遷都1300年記念事業では、おかげさまをもちまして私どもは非常にうるおい、ボーナスを頂きました。ところが高速道路の1000円化でその分が全部吹っ飛んでしまいまして、上げ下げはあるのですが、何とかうまくさせていただいたなと非常に思っております。

今後とも、私は東京丸の内のほうにおりますので、ぜひ近鉄の東京支社を訪ねておいでいただければありがたいなと思っております。県人会に対してというよりも、奈良県に対して尽くしていける会社を目指していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

高田さん（奈良市）：私が最初にお邪魔したのが4年くらい前で、そのときは三井住友銀行の東京本社におりまして、その後たまたま何の縁か、2年ほど三井住友銀行奈良の法人営業部長をやらせていただきました。地元で、非常に経済活動が苦しい奈良の事情の中で悪戦苦闘しておりまして、

PDF Compressor Free Version

その奈良のときに奇しくも、本日ご参加のオリックスの松岡さんともたまたまお見知りおきいただいたということでございまして、先ほどあったホテルに関しても、ファイナンスの立場から、何とかトライしようと頑張ったのですが、挫折をしたという非常に苦い記憶もございます。今は戻ってまいりまして、日興コーディアル証券というところに出向しております。

西村さん：私は県人会に入っているというけれど、生まれは、親の代から江戸っ子でございます。うちの年寄りに言わせると、ご維新前からずっと江戸住まいだということになっておりまして、私もまるっきり東京の人間です。そういう中で得てして起こりがちなのが、変わり種らしくて、私は学生時代以後ずーっと奈良漬けになりまして、いまだに奈良に通っておりまして、とうとう奈良県立橿原考古学研究所の応援団みたいな友史会の東京支部で皆さんのいろいろなお世話をしておりましたのですが、寄る年波で、膝の関節を痛めました。いわゆる関節症ということでやっと歩けるようになったのですが、それまでは、はいずり回るようにして奈良を楽しんでいたのですが、今年あたりからまた、それが復活できそうな様子になっています。昨年は日本中、1300年、1300年ということで奈良の方は大ハッスルで、それなりの成果が上がりました。それで息切れをせず、今年度も頑張って奈良のために動き回っていただきたいと思います。私たちは友史会の東京支部というところなので、東京のほうから奈良について一生懸命応援するつもりでおりますので、ひとつ今年もよろしくお願いします。

藤本さん（大淀町）：大淀町から出てはや10数年経ちますが、ホームページを3年ほど前から立ち上げまして、こちらの宮原さんが中心になってホームページをリニューアルしていただいてます。この辺をもっと変えてくださいとか、リンク先ですね。例えば高校の同窓会をやりたいとか、同窓会関係のリンクについても、また声を掛けていただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

松岡さん（吉野町）：私の人生はファイナンスをしていたのですが、本当はその前が野球で、オリックスの球団社長をやっていまして、今はゴルフということです。この中の皆さんもゴルフをされる方がいらっしゃると思うのですけれど、ゴルフの場合は私のほうにご連絡を頂きましたら、名簿にはまだ載っていないのですが、オリックスゴルフマネジメントのほうに連絡をしていただきましたら、超格安で超豪華なゴルフ場でプレイをしていただけると思いますので、ひとつよろしくお願いします。

横田さん：私は正確に言うと奈良の出身ではなくて、奈良に何年か勤務をさせていただいたことがあるということで、この会にも出させていただいております。ちょうど3年前まで奈良で勤務をさせていただいたのですが、奈良が非常に住みやすくて、暮らしやすかったということで、この県人会にも入って奈良の良さを忘れないようにしようということで参加させていただいております。先ほどいろいろ1300年祭のお話がありましたが、残念ながら去年1年奈良に行けなかったものですから、今年はまた奈良に行きまして、奈良の良さを味わっていきたいと思います。

森田さん（斑鳩町）：私は法隆寺のほうに長年住んでおりました。今日は3日で法隆寺で豆まきがあります。これは見事な豆まきです。今から行っても間に合いませんけれども、夜にはたいまつに火を付けて、それは勇壮なお祭りです。1回夜でもいいから、来年の節分にはぜひ法隆寺に行って、豆まきを見てください。

稲田さん（奈良市）：明けましておめでとうございます。養徳学舎の舎監をやっております稲田でございます。養徳学舎は今、茗荷谷にありまして、50人住めるのですが、今は33名在籍しております。東京大学まで自転車で15分くらいですし、早稲田大学までも自転車で15分です。明治大

PDF Compressor Free Version

学も同じような感じです。大変便利なところにあります。そして茗荷谷ですのでとても治安のよいところです。特に小日向という場所は高級住宅地として有名で、お隣は鳩山邸がある目白ですし、大変いい場所にありますので、学生さんでもし、東京にいらっしゃる人は紹介してやってください。それでは学生を呼びます。

(4名の養徳学舎の寮生の皆様から自己紹介の後、東京奈良県人会監事で弁護士の菅野谷(すがのや)様から中締めのご挨拶を頂き閉会となりました。)

菅野谷さん(奈良市):私も実は去年、この1300年記念の行事を含めまして、3回奈良に行きました。特に奈良の神社仏閣が、この1300年記念に非常に協力したんですね。普段は見せない秘蔵の仏像を公開するとか、特別に去年しか見られないといった催しがあったものですから、私はそういうツアーに入りまして、見て回りました。普段神社仏閣を外形的には何回も見ているところでも、中は全く見られなかったものが、その中を見られたということで大変感激いたしました。これは奈良が日本全体ではなく、世界に誇ってもいいのではないかと。あれだけ古い仏像などが大事に保管されていて、現在まで守られているということに大変感銘を受けました。そのことばかりではなく、例えば正倉院では普段公開しないものを去年は特別に公開したとか、そのようなことで全国から大勢観客が来ておりました。

私は奈良の生まれとして、奈良にこういう宝物があるということに誇りを持ちました。ただ一言申し上げますと、京都と奈良がいつも大変比較されるのですが、ツアーの添乗員が、「奈良のお店は夜閉まるのが早いです。だから夜に買い物に行っても閉まっていますから駄目ですよ」、とこういうことを言うわけです。これは京都と比較をして、奈良の観光客が少ないということのひとつのマイナスの点かなあと、私は個人的には思いました。どちらが原因か私は分かりませんが、そういったことをちょっと寂しく思いました。私なんかはよく知っていますから、しまってもらっても別にどうということはありませんけれど、観光客にとってはやはり、奈良の店を見物して買い物をしたいというときに、「もう店は閉まっていますよ」と、言われたのではがっかりしてしまうということがあるのかなということを、私個人的には、ちょっと思いました。

まあ余計なことを言いましたが、とにかく遷都1300年記念事業が昨年無事に終わりましたけれど、これからは立派な大極殿などがいろいろございますので、奈良に行けば見物できるわけでございますので、私どももまた奈良に行けば、これからも見物したいと思っております。

PDF Compressor Free Version

奈良まほろば館からのお知らせ

このたびの震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

また、奈良県人会の皆さまには、平素から奈良まほろば館の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成21年4月4日にオープンした奈良まほろば館は、お陰様で満2年を迎えることができました。

平成22年度は、平城遷都1300年で奈良が注目を浴びたこともあり、26万人を超える入館者と9千3百万円あまりの売り上げを記録しました。しかし、震災の影響により、3月中旬以降は入館者・売り上げともに大幅に落ち込み、特に、観光情報を求めて来館されるお客様は激減しましたが、徐々に戻りつつあります。

このような状況にあって今年度は、前年度の実績を維持することは困難であると見込まれますが、奈良の魅力をこれまで以上に積極的に発信することにより、奈良県を訪れる観光客数を少しでも多く確保できるよう努めていきたいと思っております。

また、3年目を迎えた奈良まほろば館でのイベントについても、来年の古事記編纂1300年に向けた記紀・万葉プロジェクトの推進に向けた展開を行うほか、奈良県全域をテーマ別に紹介する形での展示を行うなど新たな試みも行うこととしており、今年度上半期に予定している主なものは下記のとおりです。さらに7月10日には、都内で中西進万葉文化館館長等による万葉集に関するシンポジウムの開催も予定していますので、奈良まほろば館でのイベントと併せてお知り合いの方にもご紹介くださるようお願いいたします。

奈良まほろば館の外観が変わっています。

このたび、歩道から館内の様子が見えるように、模様替えしました。また、入ってすぐの吹き抜けに五色幕を吊して、奈良らしい雰囲気を醸し出しています。なお、今年から奈良県のマスコットキャラクターとなった「せんとくん」は、引き続き玄関で皆さまをお迎えしています。

23年度奈良まほろば館　上半期事業 予定 ・実績（4月～9月）

4月

県内のパワースポット紹介
・多くある霊験あらたかな場所の中から、いくつかをご紹介します

橿原考古学研究所附属博物館・春の特別展「弥生の里」パネル展
・弥生時代の人々の暮らしといのりをテーマとした特別展に先駆けご紹介

5月

かわいい奈良－鹿まつり2011－
・天然記念物でもある奈良のシカと楽しんでいただける企画を計画中

美と癒しのパワースポット奈良へ
・1300年の歴史が育んだ美と癒しのスポットをご紹介します

6月

万葉と七夕
・万葉集の中から七夕にまつわる恋の歌を紹介します。

7月

橿原考古学研究所附属博物館・速報展「大和を掘る」パネル展
・最新の発掘成果をパネルでご紹介します

8月

恐い奈良
・楽しいだけじゃない？すこし恐い奈良のお話をご紹介します

9月

美と健康の奈良
・歴史ある奈良の文化に触れて健康で美しくなる企画を計画中。

※今後の状況により変更・中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。
また、詳細情報や申込み等は奈良まほろば館にお問い合わせください
03-3516-3931

PDF Compressor Free Version

ふるさとコーナー

豊かな自然と歴史的遺産に恵まれた都市近郊産地「平群町」

平群町（へぐりちょう）は、倭建命（やまとたけるのみこと）が、「たたみごも平群の山のくまがし葉を・・・」と歌に詠んだように周囲を緑深い美しい山々に囲まれた町です。

この地は古代の有力な豪族・平群氏が本拠地としたところであり、はやくから文化が開け、奈良時代の公親政治家長屋王と夫人の吉備内親王の墓や、聖徳太子が毘沙門天王を感得した信貴山、役行者の修行地である千光寺など数多くの歴史的遺産が息づいています。

平群町は宅地開発により人口が急増した地域ですが、基幹産業は農業です。様々な農作物が作られており、特産品として小菊、バラ、ブドウ、メロン、イチゴなどがあります。

菊は、町の花であり、明治末期にキク栽培が始まり、100年以上の非常に歴史ある産地ですが、昭和50年代後半から小菊に特化することでブランド力のさらなる強化が図られてきました。年間出荷本数は約4,000万本、5月から12月まで継続的な出荷が行われ、夏秋期の生産本数は全国第一位となっています。JAならけんは、平成21年（2009）8月14日に「平群の小菊」の名称で特許庁から地域団体商標登録の認定を受けました。地域団体商標は、地域ブランドの育成を図るため、平成18年の商標法改正によって設けられた制度で、花の分野では全国初の認定となります。この商標を産地PRに活用することで「平群の小菊」のさらなるブランド強化を目指しています。

ブドウは、県内最大の産地となっています。明治末期に隣接する大阪府からデラウェアが導入されたのが産地の始まりと伝えられ、品種構成はデラウェア中心で、栽培面積の約85%を占めています。しかし、近年では消費者ニーズの多様化にも対応し、付加価値の高い優良大粒系品種の導入も進んでいます。

バラは、昭和48年（1973）に「平群温室バラ組合」が結成され、本格的なバラ栽培が始まりました。温室で栽培され、冬は加温栽培することで周年出荷されています。激しく変遷する消費者ニーズにいち早く対応するため常に新しい品種を導入し、バラエティに富んだ100品種もの美しいバラが栽培されています。

果菜類としては県下でも珍しい温室メロンのほか、トマト、イチゴなどが栽培されています。メロンはアールスメロンが栽培されており（上庄メロン）、直売のほか宅配も行われています。トマトはメロンの後作として栽培され、イチゴについては主に奈良県育成品種であるアスカルビーが栽培されており、いずれも採りたての美味しさから好評を得ています。

さらに町おこしの一環として新たな特産物づくりができないかと検討を重ねた結果、地元で古くから親しまれて作られてきた、甘みが強く、焼き芋やお菓子、料理にも適している金時さつま芋でオリジナルの焼酎を作ることになり、へぐりの芋焼酎「里の恵」を企画しました。「里の恵」は、平群産の金時さつま芋、奈良県産100%の米を材料とした米麹、世界遺産　春日山原始林の地下水など奈良の素材にこだわり、県内で唯一芋焼酎を製造している蔵元「八木酒造」で昔ながらの手作業により醸造された本格芋焼酎です。また、通常食用として用いられる金時さつま芋を使用し、素材の甘みや旨みを焼酎に取り入れた、他にはないオンリーワンの芋焼酎をめざし平成19年（2007）から製造したもので、地元ブランド商品としてへぐりの芋焼酎「里の恵」は、まろやかで芳醇な味わいから評判もよく、現在は、40度/720ml、25度/720ml、25度/1800mlの3種が、道の駅「大和路へぐり・くま

PDF Compressor Free Version

がしステーション」等で販売されています。

平群町は、全国に発信できる魅力ある特産品づくりを目指しています。

ふるさとコーナー

きなりの郷 下北山村 －元気、本気の人気村－

下北山村は、奈良県の東南部に位置し、南部は和歌山県北山村（飛地）、東南部は三重県熊野市に接しています。村域の90%余りを山林が占め、四方を山に囲まれたこの地は、平成16年7月に世界遺産に登録された「大峯奥駈道」の一つである釈迦ヶ岳をはじめとする大峯山系が連なり、村の大部分が吉野熊野国立公園に指定されています。歴史性を秘めた原始林、渓谷、岩場などの調和した山岳地の自然景観に恵まれた緑豊かな村で、日本の滝百選に選ばれている「前鬼不動七重の滝」は、村の北の玄関口「前鬼橋」から村道を約6キロ進んだところにあり、水量豊かな前鬼川の流れが、水飛沫を上げながら滝壺に落ちてゆく姿は訪れる者の目を奪い、足を止めます。また、遊歩道もあり、迫力のある滝を眼前で楽しむことも出来ます。奇岩奇石が並ぶ「石ヤ塔」は、生い茂る原生林のなかで、永い年月をかけて創造された壮大な大自然の彫刻です。梅雨時季の「霧の石ヤ塔」、紅葉時季の「秋の石ヤ塔」には多くのカメラマンが押し寄せ、にぎわいを見せます。民話伝承の地「明神池」は、年中水位を変えないといわれ、国道169号より国道425号に入り、急な坂道を登りきった所にあり、古くから水の神として崇められている池神社の御神体になっています。池のほとりには遊歩道（明神池周遊コース1km・山コース2.6km）があり、自然散策に最適です。

前鬼・不動七重の滝

村では、本物のモノづくりを進めるために本村の無限の資源である自然、生活文化、人を活かした「※きなりブランド」を創造しています。「下北春まな」は、大峯山系から流れる清らかな水の恵みを受け、村ならではの気候が育んだ野菜です。山裾の畑で丹精こめて作られる「下北春まな」は、昼と夜の寒暖が激しく、霜が葉を覆う冬の厳しさが葉肉の厚い独特の風味を醸し出してくれます。秋口に種を撒き収穫は2月頃、無農薬栽培の「下北春まな」は、この地域の気候でしか栽培できないと言われています。また、平成20年3月に大和・奈良のブランド「大和野菜」にも認定され奈良県内でも注目されています。

「南朝みそ」は、味噌自慢の人々によって永い時の流れの中で育まれた味を素に、最新の設備を備

PDF Compressor Free Version

えた村営の工場で、伝えられた独特の風味を損なうことなく調整し作られています。原材料は、国内産の大豆、米、塩、米麹のみで合成保存料や発酵抑制剤など一切使用しておりません。仕込みから出荷までに一年間のものと二年間のものがあります。

バス釣り天国、池原ダム

観光において池原ダム下流河川敷を活用した「下北山スポーツ公園」は、雄大な山々、緑に囲まれた自然環境を生かして様々なスポーツが楽しめるエリアとなっています。巨大なアーチを描いてそびえる池原ダムの上から見下ろすと総面積19万㎡という広大な敷地の中に、キャンプ場、多目的グランド、テニスコート、パターゴルフ、ローラースケート、わんぱくランドと言ったアウトドアライフが満喫できる空間があり、また宿泊施設・研修施設も完備されています。美人の湯として特に女性の方に人気がある「下北山温泉・きなりの湯」は、泉質が良くナトリウム炭酸水素塩・塩化物泉で、入浴後は肌がつるつる、すべすべとなり、他にも健康増進等幅広い効果が認められています。「池の平公園」には、紀伊半島の山間、標高400mの高原にある「池の平ゴルフ場」があり、全国でも数少ない村営のゴルフ場として知られています。9ホール（1783ヤード、PAR30）のショートコースで、緑に囲まれた絶好のロケーションの中、ゆったりとプレイできます。

下北山村では、官民が一体となった四季折々のイベントが行われており、本村を訪れて頂く多くの皆様に楽しんで頂けるような村づくりを心がけております。

※きなりとは…近年、私たちの暮らしのなかにおいて、生成醤油や白木づくりの家屋など、「きなり」と呼べるものが少なくなっています。私たちのまわりには、添加物や不必要な装飾が施されていたり、材質に合板やプラスチックなどの人為的な加工が施された商品がほとんどであります。日本独自の価値意識である「きなり」とは、まざりけのない純粋という意味で、それは本物にだけ使える言葉です。

せんとくんファミリー

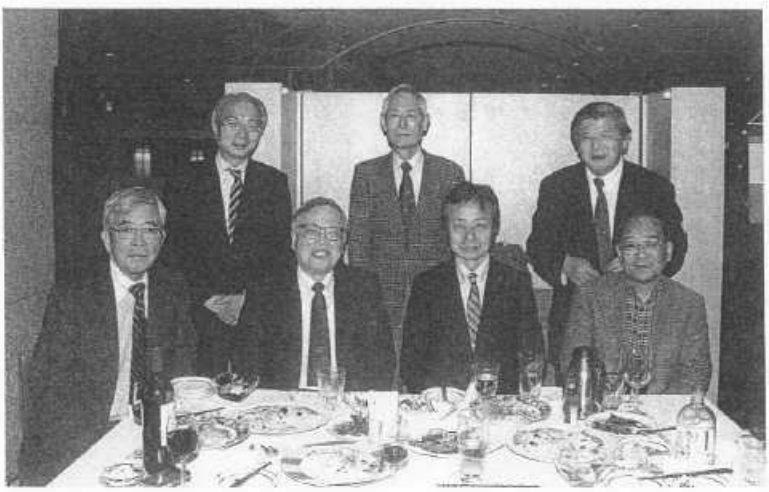
PDF Compressor Free Version

参与会など

平成22年度第二回参与会は、昨年12月4日午後1時から、三笠会館吉野の間で開催されました。奈良県東京事務所はじめ参与、賛助会員など17名の参加により、にぎやかに進行しました。(以下敬称略)

上田副会長の司会により、尾上会長代行の挨拶と上田奈良県事務所長の乾杯に始まり、懇談が進む中、去る11月18日に開催された平城遷都1300年記念シンポジウムのアンケート結果の報告(参加者の約8割が満足)や、新しく人事異動で着任された近畿日本鉄道㈱の竹村東京支社長のご挨拶をいただきました。最後に㈱南都銀行東京支店の中島次長から中締めのご挨拶をいただきお開きとなりました。また、参加者全員に岡村印刷工業㈱取締役事業本部長から恒例の仏像カレンダーが配られました。

平成21年4月から2年間、当会を大変お世話いただきました奈良県東京事務所の角田副所長が本庁の子育て支援課長として異動されることになり、去る3月28日、当会役員6名の参加を得て送別会を開催しました。



PDF Compressor Free Version

お 知 ら せ

◎東京事務所幹部人事異動

新任副所長　有本　昌弘　氏　　前任　角田　善茂　氏⇒県庁子育て支援課長

○賛助会員代表者の異動

新任　近畿日本鉄道(株)東京支社長　竹村　暁弥　氏（奈良市ご出身）

◎新入会員の方々ご紹介（平成22年10月以降、入会順、敬称略）

○参与会員　川尻　至良（平成21年度）　古川　弘成

○新会員　大西　仁人(奈良市)　奥村　隆志(大和高田市)　中辻　裕一(奈良市)　玉井　哲(橿原市)

◎物故会員の方（平成22年4月以降にお知らせ戴いた方）

謹んでお悔やみ申し上げますとともに、衷心よりご冥福をお祈り致します

森田　実　氏(元参与会員）1年前に亡くなったと平成22年7月15日ご家族よりのご連絡有

堀内　雅夫　氏(参与会員)平成22年7月28日ご逝去　平田　秋夫　氏(元会員)平成22年10月ご逝去(新聞)

◎会員短信等

○ご寄付　・ふるさと奈良の集い時　西会長

・祝1300年記念事業　西会長

○会員短信要旨（到着順）

H22/10/26　西浦　亮氏：老齢になり会合他へ出席出来なくなりましたので奈良県人会を脱会させて頂きたく、よろしくお願い申上げます。貴会の益々の御発展をお祈りしております。

H23/01/17　宮内　憲悟氏：肩書きは、代表取締役会長に訂正をお願いします。

H23/01/18　加藤　恵子氏：最近物騒な事件が続いているため夜間の外出を控えております。ご了承くださいませ。

H23/01/21　和田　保夫氏：体調もリハビリ一検定等と努めていますが復帰は当分かかりそうです。

H23/01/26　田口　憲隆氏：体不調のため欠席させていただきます。

H23/01/27　高木　俊晴氏：2月に三輪そうめん山本を定年退職致します。お世話になりました。後任は松岡が担当します。

H23/01/28　川本　佐江子氏：1月19日に遷都1300年オフィシャル広報隊として知事より感謝状をいただきました。

H23/01/31　武田　家明氏：昨年7月に経済産業省から防衛省に出向しました。

住所変更ご連絡各位：阿部　弘美氏(会社)、植田　雅人氏(勤務地大阪自宅住所追加)、竹田　るり子氏、月森　砂名氏、藤山　純一氏(奈良日日新聞社住所)、横田　淳氏

転居先不明（案内便戻り）：亀田　秀夫氏、菊池　亮氏、笹本　欣哉氏、島田　喜博氏、津賀　季弘氏、圓尾　貴司氏、山本　正暁氏

◎平成23年度総会および講演・懇親会開催日時・会場決定

平成23年度総会、講演および懇親会は、5月21日(土)11時からSun－mi高松銀座7丁目店で開催することが4月7日の役員会で決定されました。今回の講演では、会員の月森砂名さんが本誌P20～21でご紹介しておられます関東の大学2校による、ハイビジョンカメラ、3Dカメラ撮影「奈良PV(プロモーションビデオ)作品」の上映会、および奈良の魅力と文化的ポテンシャルについて、お話いただく予定です。講師は、尚美学園大学　芸術情報学部　情報表現学科教授　定平　誠様、関東学院大学　工学部　情報ネット・メディア工学科准教授　海老根　秀之様、同非常勤講師の柳沢　富夫様の予定です。

会員の皆様のご出席を何卒宜しくお願い申し上げます。(詳細は同封の総会案内をご覧下さい)

なお、総会にご出席いただけない会員は、総会議事決議を議長に一任されたものとさせて頂きます。

◎事務局から年会費振込のお願い

本会は会員皆様方から頂戴した年会費で運営致しており、23年度になっておりますがまだ22年度の会費がお済でない方は勿論、23年度の会費をお振込頂く方は、同封の郵便払込用紙又は下記南都銀行口座（口座番号は県人会までご照会下さい）にお振込下さいますようお願い申し上げます。

尚年会費は：

賛助会員：4万円以上　参与会員：1万円　一般会員：3千円　役員：1万5千円から

振込口座：南都銀行東京支店　普通預金　20XXX　東京奈良県人会会長　西　与吏郎

PDF Compressor Free Version

東京奈良県人会だより　平城遷都1300年記念号（28）

2011（平成23年）年5月1日　発行

発行人　　／西　与吏郎
編集・発行所／東京奈良県人会
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
奈良県東京事務所内
TEL 03-5210-2838
URL：http://www.tkynarakenjinkai.com/index.htm
印刷・製本／望月印刷株式会社

© TOKYO NARA KENJINKAI, 2011. Printed in Japan